

英語のことわざ・名言

— 比較文化的考察ノート —

広島女学院大学総合研究所

2004年12月

この叢書の著作権は広島女学院大学総合研究所にあります。

執筆者

第Ⅰ部

児玉 実英（広島女学院大学教授）

第Ⅱ部

河内 清志（広島女学院大学助教授）

広島女学院大学総合研究所叢書 第1号

2004年12月13日 印刷

2004年12月20日 発行

発行者 三 浦 芳 助

発行所 広島女学院大学総合研究所

〒732-0063

広島市東区牛田東4-13-1

TEL (082)228-0386

印刷所 レタープレス株式会社

〒739-1752

広島市安佐北区上深川町809番地の5

(非売品)

TEL (082)844-7500

叢書の創刊によせて

総合研究所

所長 三浦芳助

広島女学院大学総合研究所は、1993年4月に創設され、本年12年目を迎えました。この間、教員の教育・研究活動の活性化、並びに、その成果の社会への還元という二つの主要な業務を遂行しております。

従来より、本学総合研究所は、専門学術に関する原著論文が掲載される「広島女学院大学論集」の編集、及び「研究図書」の出版助成を通して、広島女学院大学における学術研究の奨励、研究の促進の一翼を担ってきました。2002年度の総合研究所委員会において、「叢書」の発行についての検討が開始されました。「論集」・「研究図書」とは異なる（それらの中間的な位置づけとしての）出版物として「叢書」を捉え、執筆要項が制定されました。そして、この度、待望の「広島女学院大学総合研究所叢書」を創刊する運びとなりました。

「広島女学院大学総合研究所叢書」が研究成果の発表の場として、また、他大学・研究所との研究交流の手段として活用されるよう祈念いたします。今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2004年12月

英語のことわざ・名言

—比較文化的考察ノート—

まえがき

本書は英語のことわざや名言を比較文化的に考察した研究ノートである。

英語のことわざといっても、もともとラテン語であったり聖書からとられたものであったりするものもある。ヨーロッパ大陸から渡ってきたものもあるし、エジプトやアラブ圏から入ったと思われるものもある。しかし本書の目的は、ことわざのソースを探求することではないので、今なお英語で語りつがれているものを、考察の対象とした。とくにその中から陳腐なものは省き、啓発されるところの大きいものを選んで、日本のことわざと比較を試みたものである。

日本のことわざといっても、実は中国から渡来したものが多くある。しかしそれらが、いつの間にか日本のことわざになりすまし、日本文化の一部になっているのである。昔の日本人の漢籍の素養には驚くばかりである。しかし中国ばかりではない。「目には目を、歯には歯を」といったもののように、旧約聖書（出エジプト記）から入ってきたものもある。これらについても、ソースをたどるのが本書の目的ではないので、今でも命脈を保っている日本のことわざをとりあげている。

比較的考察といっても、比較文学でいう影響研究の実証的考察ではなく、むしろ影響関係のないもの同士を比べていることが多いので、比較文学理論の用語を借れば、対比研究といった方がよいのかもしれない。しかし個々のケースにあたると、日英間で同じような表現のことわざでもニュアンスがちがったり、内容が同じでも表現のし方がちがったりすることが多く、本書では、そのちがいを指摘すると同時に、そのちがいの文化的背景を比べてみることを試みた。これが本書の一つの特徴である。だから比較文化的考察という副題をつけた次第である。

しかし文化的背景の考察といっても、実は英語学的、文学的考察が多く、文化人類学や教育学的な視点からの考察はあまりない。ことわざ研究には、総合的なアプローチが必要なことはよく承知しているので、本書の副題には、ノートと付した。今回はとりあえず研究ノートの形でまとめ、総合的な研究は、これからの研究を待ちたいと思っている次第である。

本書のもう一つの特徴は、第Ⅱ部で検討したように、ことわざ・名言の考察に関わる方法論を幅広く取り扱ったことである。ことわざ・名言にはいろいろなアプローチがある。定義や分類にもいろいろな切り口や方法があり、ことわざ・名言のパロディにもいろいろな種類がある。それらをまとめて、ことわざ・名言はどう考察することができるのか、その方法論のあり方を検討した。今後の研究に役立てば望外の幸せである。

参考文献はたくさんあるが、第Ⅰ部では中でもしばしば参照したものだけにしばってリストを付しておいた。とくに感銘深く読んだのは奥津文夫氏の著書である。ただこの書に接するのが遅く、本書の本体がほとんど書きあがった段階だったので、実際にはあまり引くことができず、残念に思っている。ただ氏の関心が私の関心と近く、啓発されるところが大きかったということだけは、特筆しておきたい。

本書中のことわざや名言の解釈や翻訳、論文の内容などに関する責任はすべて著者にある。至らない点も多いことと思うが、そのような点については今後ご叱正いただければ幸いである。本書が、この分野の今後の研究に資するところが大きいとことを希いたい。また、出版にあたっては、広島女学院大学の皆さま方、とくに総合研究所の関係の方々にもいろいろお世話になったので、深く感謝の意を表したい。

なお、本書の中では、ことわざや名言を原典のまま記述した箇所があるために、日常の言語使用上不適切な表現があることをあらかじめお断りしておきたい。

著 者

英語のことわざ・名言

—比較文化的考察ノート—

目 次

叢書の創刊によせて	i
まえがき	iii
第Ⅰ部 英語のことわざ・名言	1
—比較文化的考察の事例的研究ノート—	
尾玉 実英	
第Ⅱ部 英語のことわざ・名言	93
—その考察に関わる方法論の研究ノート—	
河内 清志	
参考文献	163

*イラスト 小田 紀子
(広島女学院大学
文学部英米言語文化学科)

第I部

英語のことわざ・名言

—比較文化的考察の事例的研究ノート—

兎 玉 実 英

A book is an ax

to break the frozen sea within us.

—Franz Kafka

★ ax = axe ^{おの}「斧」

意味

書物は我々の心の中の凍った海を砕く斧である。

—フランツ・カフカ

解説

心を閉ざすと、冷めたく凍ってしまう。読書によって心は暖められ、まるで氷が斧で砕かれるように、音をたてて壊れていく。すると心の中では、いろいろな知識が溶けあい、融合する。

カフカ（1883-1924）はチェコの実存主義作家。

類例

本の中には天下さま

- ◆本の中には、天下のあらゆるものが収められている。大切にすべきである。
- ◆カフカのことばには、心の中で過去の知識が破壊されたあと、新しい知的体系が形成されるというダイナミズムが感じられる。日本のことわざでは、知識の積み上げの重要性が語られているようだ。しかし、いずれにおいても、読書体験による新しい知の創造の大切さが述べられている。

A castle that parleys is half gotten.

★ parley 「停戦協議する」「和平交渉する」

意味

停戦協議を申し出るような城は、半ば降服しているのも同然。

解説

勝敗が決していない段階で和平交渉を申し出ると、相手はこちらが敗北を認めたと思い、不利な条件を突きつけてくる。

類例

戦うべき所を戦わずして、身を慎むをもって恥とす。

(『太平記』)

類例

戦いは最後の5分にあり (ナポレオン)

解説

安易に和睦交渉をしてはいけない、という。とくに東洋では、戦いは勝つか負けるかのどちらかしかない、とする考えが強い。

◆例えば「敗軍の将は敢えて勇を語らず」、余力があっても負ければ完敗と同じと考える傾向がある。

◆このように和平交渉はむづかしいが、双方の損害を最小にとどめるためには早く停戦にもちこむことが大切。だから停戦交渉の時期や方法に最大の注意を払うことが必要。

類例

It is no time to stoop when the head is off.

★ stoop 「腰をかがめる」「おじぎする」

◆首が落ちてしまってから腰をかがめても遅すぎる。

A hedge between keeps friendship green.

★ hedge 「生け垣」

意味

生け垣がお互の間に茂っていれば、友情は枯れない。

解説

友人どおしが、互に、私的な領域にふみこまないよう境界線を守っていれば、友情はいつまでも保つことができる。

類例

親しき仲にも礼儀あり

- ◆親しい間柄でも、なれなれしくしてはいけない、けじめをつけるのが大切、というのが東洋的発想である。プライベートの尊重が確立している西洋では、その領域を守る「垣」のイメージが視覚的でわかりやすいのだろう。この種の忠告には、よく垣が用いられる。

類例

Good fences make good neighbors.

- ◆よい垣は、よい隣人をつくる。

なおこのことわざは、ロバート・フロストの“Mending Wall”という詩の中で、保守的なニューイングランドの農夫が語ることばとして引かれている。

A man without money is no man at all.

意
味

金のない人は人にあらず

解
説

たしかに、いくらよいアイデアがあっても、経済的うらづけがなければ、実現はむづかしい。だから、もちろんこの英語のことわざは、一面の真理をいい当てている。しかし金のない人は「人でない」というのは、あまりにも誇張が過ぎる。その点日本のことわざには、ゆとりのあるユーモアがある。

類
例

アシがなくては動かれぬ

◆足とおし（金）をかけている。

日本では金のことを直接口にすることを慎む風潮があった。

A man's paradise is his good nature.

—Khati

意味

人間の楽園は、その人の善性にある

—カティ

解説

楽園を求めたいのなら、よい心がけをもつことだ。逆によい心がけをもっていれば、楽園にいるようなもの——このような善性と楽土、善行と至福を結びつける教えは、多くの宗教や倫理思想に見られる。

類例

積善の家には必ず余慶あり（積善之家必有余慶—易経）

- ◆余慶は、先祖の善行により子孫が受ける幸せ。儒教的な考えでは、善行は本人だけではなく、一家の子孫にまで、その恩恵を及ぼすという。しかし実は英語の原文は少しちがうニュアンスをもっている。
- ◆これは古代エジプト王カティのことばで、エズラ・パウンドの「キャントウ93」に引かれている。パウンドの娘の夫ポーリス・デ・ラッヘヴィルツ（エジプト学者）から、このことばが象形文字で残っていることを知り、大いに感動して詩に書き込んだという。
- ◆パウンドの考え方は、天国は天にあるのではなく、地上にある、しかも人の心の中にある、という——今が永遠につながって。

A master never finds fault with others.

意味

達人は、決して他人に欠点を見出さない。

類例

名人は人をそしつらず

- ◆優れた人は、人を批判したり、見下したりしない。内容、表現とも、日英間でよく似ている。



A small leak will sink
a great ship.

意
味

小さな水もれも、大きな船を沈める。

解
説

あとで大きな問題になるようなことは、常に目くばりして早いうちに見つけ出し、対処することが大切。後難の恐れがあるものは早く芽をつんでしまおう。

類
例

小事は大事。

- ◆英語のことわざの方が具体的，視覚的。日本の方はかえって抽象的な表現をとっている。

A tree is known by its fruit.

意味

木はその実によって知られる。

解説

木の価値は、その大きさや姿ではなく、残す実によってわかる。ちょうどそのように先生も、育てた生徒たちによってその価値がわかる。職場の上司についても同じ。優秀な部下を育てたかどうか大切。

◆出典は新約聖書マタイによる福音書12章33節。

類例

山高きが故に貴からず、木あるをもって貴しとなす。

- ◆外観がりっぱでも実質がともなわなければ値うちがない。
- ◆人が貴いのは、地位や生まれが高貴だからでなく、仁徳があるからである。

Arguments out of a pretty mouth
are unanswerable.

—Joseph Addison

意味

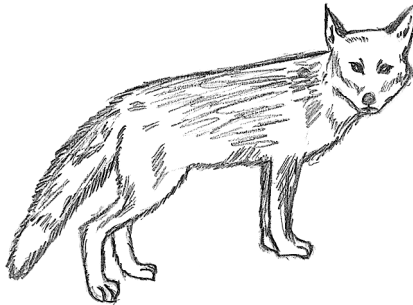
美しい口から出た議論には反駁できない。

—ジョゼフ・アディンスン

解説

美しい女性の口から出たことばには反論しにくい。日本には類例がない。

ジョゼフ・アディンスン（1672-1719）は18世紀英国の文筆家。



Art consists in concealing art.

★ art には「芸術」という意味と「技巧」という意味がある。それをたくみに使いわけている。

意味

芸術は芸を隠すことにある。

解説

若い芸術家は、しばしば技や知識を、あからさまに見せようとするところがあるが、それは未熟な証拠。それを表に見えないようにするのが奥ゆかしい——こういった考え方は、実は西洋よりも日本の芸能に強い。たとえば——

類例

秘すれば花

◆世阿弥の『花伝書』や谷崎潤一郎の『^{いんえいらいさん}陰翳礼讃』などには、そのような美意識が語られる。この感覚は、庶民の文化の中にも流れこんでいる。

類例

夜目遠目笠のうち

◆女の方は、夜見たり、遠くから見たり、あるいは笠の影からちらっと見えたりすると、より美しく見える、という。日本では、能力を見せびらかすのも、好ましく思われない。

類例

能ある鷹は爪を隠す

◆しかしグローバルな競争が激しい時代、いつまでもそれでよいかどうか。

At our time of life,
to be alone is sometimes
as needful as sleep.

— Charles Lamb

意味

人生のわれわれのような段階では、ときどき、一人になることが、睡眠と同じほど必要だ。

—チャールズ・ラム

解説

一人になって、精神的深みの次元にひたることの大切さをいっている。

生きている間によい絵を見、よい音楽を聴き、よい文学を読み、魂を揺さぶられるような経験をしておくことが、良い人生の過ごし方ではないか。

チャールズ・ラム (1775-1834) は、19世紀英国の名随筆家。

Bacchus has drowned more men
than Neptune.

—Thomas Fuller

- ★ Bacchus ローマ神話の酒神「バックス」（ギリシャ神話のディオニソスにあたる）
- ★ Neptune ローマ神話の海神「ネプチュン」（ギリシャ神話のポセイドンにあたる）

意味

酒神バックスは、海神ネプチュンより多くの人を溺れさせた。

解説

酒に溺れることは、からだにも精神にもよくない。—それは古今東西を問わず、酒を育んだ文化のあるところには、どこにでもある戒めである。もちろん日本にも類似したことわざがある。珍しく韻をふんでいる。日英ともユーモアがある。

類例

海中より壺中に溺死するもの多し。

- ◆昨年101才の誕生日を迎えた声楽家中川牧三氏は、「お酒は料理をおいしく味わうためにいただくもの」という。酔っぱらうのは野暮と。
- ◆トーマス・フラー（1608-61）はイギリスの聖職者。

Barking dogs seldom bite.

★ bark 「(わんわん) 吠える」

意味

吠える犬は、めったに噛みつかない。

解説

よく攻撃的な発言をする人は、実は気が弱いことが多い。批判的な人は、実は気持ちの優しい人が多い。

類例

犬の遠吠え

- ◆この日本のことわざは、少しニュアンスがちがう。臆病な人が、影で大きな口をたたいたり、批判したりすることをいう。

Be it ever so humble,
there is no place like home.

—John Howard Payne

★ Be it ever… = Even if it be…「たとえ…であろうとも」

★ humble 「質素な」「貧しい」

意味

たとえどんなにそまつであろうとも、故郷の家にまさるところはない。 —ジョン・ハワード・ペイン

解説

“Home, Sweet Home”（はにゆう 殖生の宿）の歌の一節である。
ペイン（1791-1852）はアメリカの劇作家。

類例

ふるさとは遠くにありて思うもの。

Behold the turtle. He makes progress
only when he sticks his head out.

★ stick out 「つき出す」

**意
味**

亀を見よ。甲羅から首を出すときだけ、亀は前へ進む。

**解
説**

狭い社会の中で中華思想に浸っている間は、進歩がない。広い世界に首を出して、見まわしてごらんなさい。そこから前進が始まる。

**類
例**

井の中の蛙，大海を知らず。

◆なおこの日本のことわざは、軽蔑的に用いられることが多いが、この蛙のような人の中にも、視野は狭いがあなどりがたい深い知識を持っているスペシャリストもいる。その貴重な存在のことを忘れてはいけない。

Better bend than break.

★ better の前に you had を補うとわかりやすい。

意味

折れるよりは、しなやかに曲がったほうが良い。

解説

原野に立つ大きな一本の檜の木のように、強く風雨に耐える姿も美しくrippだが、ポキンと幹から折れてしまつては、惜しまれるかもしれないけれども、「風倒木」として横たわるだけだ。人生の困難に対しては、柳のように、柔軟に対応するほうがよい、と言つた意味だろう。

日本の類似したことわざとして、「長いものには巻かれろ」がある。これも似たような人生訓だが、これは封建時代のニュアンスが感じられ、江戸期から昭和の軍国主義時代の、強大な、ときに理不尽な権力に対する諦めや卑屈な態度を反映しているようだ。

しかし、このことわざは、日英両方とも、また洋の東西を問わず、したたかな庶民の生きざまを精一杯表現しているものといえよう。

Better by far to be a slave among the living
than great among the grave.

★ by far 「よほど」

★ among the living 「生きているものの中で」つまり「この世で」

★ grave 「墓」「地獄」

意味

地獄で偉くなっているより、この世で奴隷をやっているほうが、よほどでした。

解説

死んだあと、惜しまれたり崇められたりするもの、よいかもしいないが、それより苦勞しながらでも、生きていた方がよい。「墓」を「地下」ととれば、闇の世界で巾をきかせているより、まともな世界でまじめに働いているほうがよい。

◆もともこのことばは『オデュッセイア』第11巻に出てくるアキレウスのことば。アキレウスは、トロイ戦争で活躍したギリシャの武将。子どものころ不死の秘薬を全身に塗ってもらったが、両足のかかとのつけねあたりは、塗ってもらえなかった。アキレウスの身体を支えるため、大人がそこを手で押さえていたから、という。やがてアキレウスは成長し、太く短く生きるという人生観を持つようになり、戦場では大あばれした。しかしついに矢がかかとの上に当たってあえなく戦死。のち、人々はその部分をアキレス腱と呼ぶようになったという。

戦争が終わり、オデュッセウスが海路ギリシアに帰国する途中、冥界

キメリアの国を訪ねたとき、彼はアキレウスを呼び出してみた。するとアキレウスが青白い顔をして現れ、語ったのがこのことば。いくら地獄でいばっていても、やはり死んでしまったら、つまらないという。

このアキレウスのことばは、アメリカの現代詩人、A. E. ストーリングズの「アルフォデル」という詩の中で引かれている。場面はギリシア北部。

…今、通っているのは、アスフォデルの原野です。
地獄の原野に生えているという花です。
このような野原の向こうから、誇り高い
アキレスの青ざめた影が現れたのです。
彼は名もなく生き永らえるより、
名誉と短命を選んだ人です。しかし、
オデュッセウスに呼び出されて、彼に智恵を与えます。
「冥界で偉くなるより、生きている人間の間で
奴隷をやっているほうが、はるかによいぞ」と。

- ◆なおこのアキレウスのことばは西洋では有名で、シェンキエヴィッチの『クオ・ヴァディス』（小説）の中でも、ネロの酒宴の席上、ローマの老貴族が吐き捨てるようにつぶやくことばの中に引用されている。「ローマは滅びる。なまじ生活が愉快なだけに残念だ。…常闇の国王たらんより、日の照るこの世の奴隷たるがましだって」

Better the foot slip than the tongue.

意味

口がすべるより、足がすべる方がました。

解説

足をすべらせても、せいぜいけがをする程度ですむ。しかし一言多くしゃべったために人生が狂ってしまうことは、よくあることだ。

類例

雉子も鳴かずば打たれまい (安居院神道集)

- ◆一声あげてしまうと、致命傷を受けかねない。洋の東西とも、失言に注意なさい、といている点は同じ。ただ英語のことわざは、「すべる」という意味の **slip** という動詞をうまく使い、足と舌とにかけて、仮定法的に用いている。しかし、口をすべらせたあとの怖さは、まったく表わされていない。
- ◆その点日本語のことわざの場合、美しいキジが、ひと声鳴いたために撃たれてしまう恐ろしさと哀れさが、よく表わされている。なお、このことわざには故事があって、キジが鳴いたために、たまたまいあわせた男が橋の改修工事の人柱とされてしまったことをあわれんで、よまれた歌からとられたもの、という。

Coming events cast their shadows before.

★ coming events 「今からやってくる事件」「これから起ころうとして
いる事がら」

意味

事件は、起こる前に、忍び寄る影を落とす。

解説

事件は突如起こるものではなく、近づいてくると、その前に必ず影のような予兆がしのび寄る。だからそれを見逃してはいけない、という。とくに異常なできごとは、なんらかの事件につながる前兆だから、気をつけるように、と。このような前触れに触れた詩句が、東洋にもある。

類例

^{さんう}山雨来たらんと欲して^{ろう}風楼に満つ 山雨欲来風満楼

- ◆山雨は、降りかかってくる前に、風を高楼がいっぱいになるくらいに吹き付けてくる。転じて、なにかことが起こる前には、ただ事ではない現象が起こる、の意。
- ◆これは中国唐代の豪快な作風で知られる詩人、^{きよこん}許渾の書いた「^{かんよう}咸陽城東楼詩」の一節。
- ◆兆候を読みとり、適確に予見する能力は、洋の東西を問わず、大切。

Danger is a good teacher,
and makes apt scholars.

★ apt 「才気ある」「才能ある」「理解の早い」

意味

危険は良い教師である。それは才能のある学生を育てる。

解説

危機意識を持っていないと、社会に役立つような学問ができない。

類例

いにしへの道を聞きても唱えてもわが行いにせずばかいなし

— 島津 忠良

コミュニケーションは、横に広く伝えるだけではない。

縦に深く伝えなければならない。

— 竹中 正夫

教師は3つの面で教える。正面、横顔、後姿。

— 渡辺 和子

りょうきん

良禽は木を運ぶ。

◆ 賢明な鳥は良い木を選んで巣を作る。

そのように賢明な人は、よい学校や、よい職場を選ぶ。また、よい師を選ぶ。

Discretion is the better part of valor.

- ★ discretion 「思慮」「分別」。ここでは、「思慮深く慎重な行動をとること」。平たくいえば、「忍耐して、争いを避けること」
- ★ better part 「半分以上」「大部分」
- ★ valor 「勇気」「勇猛の精神」

意味

慎重な行動こそ勇気の大半。

解説

慎重な行動をとるということは、大変勇気があることだという。無理難題を押しつけられたときなど、かっとなってはいけない。また、不正に対して勇猛に立ち向かうのも一つだろうが、その場ではぐっと耐えて、争わず、次の機会を待つというのは、何倍もの勇気があることだ。

英米では、このことわざは、危険を察知したとき、その場から遠ざかること、つまり「君子危うきに近寄らず」といった態度をとることを、自己弁護的にいうこともある。この場合は「慎重な行動こそ勇気の大半」ということばは、やや自嘲的になる。(もっとも「君子危うきに近寄らず」ということばは、本来、君子は身を慎む人だから、はじめから危険な場所に身置くようなことはしない、の意。)

しかし、戦況が不利と見て取ったとき、さらに果敢に戦い続けて多くの犠牲を出すより、いったん思いきって退き、後日再起を期するのが真の勇気といった意味にもとりたい。“Better bend than break”にも通じる。

Don't rest on your laurels.

★ rest on 「安住する」

★ laurel 「月桂樹」 laurels 複数形は「月桂冠」

古代ギリシャで、勝者に月桂樹で作った冠を与えたことから、勝利や栄誉の象徴。

意味

月桂冠に安んじてはいけない。

解説

戦争や競争に勝ち、栄冠を手にしたからといって、気をゆるめてはいけない。

類例

勝って兜の緒を締めよ。

◆ちょっと成功して名声をえたからといって、油断したり、まして傲慢になったりしてはいけない。次のもっと大きい目標に向かって常に努力しなさい。

Eagles fly alone.

意味

鷲は一羽で飛ぶ。

解説

偉大な人は群れず、一人で決め、行動する、という。これに似たことわざがユダヤにある。

類例

太陽は一人で沈む

解説

ちょうど太陽がただ一人で沈むように、偉大な人が表舞台から去るときは、一人で、だれとも相談せず、堂々と姿を消していく。あたりに美しい光彩を放ちながら。

また、偉大な人は息を引き取るとき、一人で静かにこの世を去っていく。

ユダヤの広い砂の大地、澄んだ空、そこでは太陽は熱くその存在感を示す。それだけに、この日没のイメージの荘厳さは、たとえようもない掙の厳しさと暗く冷めたい夜に向かう寂寥感せきりょうかんを漂わせている。

類例

A great ship asks deep waters.

参考

大魚は小池に棲まず。

Every exit is an entry
to somewhere else.

意味

どの出口も、次の世界への入り口だ。

解説

一つのことを完成しても、また次が待ちかまえている。完成せず、途中で投げ出しても、同じことである。

類例

人の世は関所越えればまた関所。



Every oak has been an acorn.

★ oak 「樫の木」

★ acorn 「どんぐり」

意味

どんな樫の木も、かつては一粒のどんぐりだった。

解説

どんなりっぱな人も、幼いころは、ふつうの子どもだった。どんな子どもでも若者でも、努力すれば偉大な人物になる種を宿している。

アメリカのジャーナリスト David Everell は、1790年ごろ、小学校の教師をしていたが、子どもたちが憶えやすいように “Tall oaks from little acorns grow.” と書きかえた。（“Lines written for a School Declamation”）

Everyone must row
with the oars he has.

意味

自分のボートは、自分のオールで漕がなければならない。

解説

人生のレースは、人に頼ってはいけない。自分の力で漕ぎ続けるためには、自分の能力とその限界を、よくわきまえていなければならない。

ボートでもマラソンでも、最初からムリをするとあとで崩れる。自分のペースを心得ていれば、ここ一番というとき、精いっぱい力を出しきることができる。

しかし人をあてにしているは、大きな勝負はできない。

Everything comes to him who waits.

意味

待つ人のところには、あらゆるものが、来る。

解説

日本のことわざは、具体的かつ比喩的である。

類例

待てば海路の日和あり

- ◆海が荒れているとき、航海に出るのは危険である。少し待てば風雨がおさまリ、やがて静かな海に船出することができる。そのように、あわてれば苦労も多く、また失敗する可能性も高いが、じっとチャンスを待てば、必ずよいことがある。
- ◆たしかに現代都会生活の中では、即決がせまられることが多い。しかし急いで判断しなくてもよいものも、たくさんある。そういうものにたいしては、あわてず、情報を集めたり、情勢が変わるのを待ったりすることが大切。
- ◆日英のことわざは、ともにそのことを思い出させてくれるが、まず決断を急ぐものと急がないものを見きわめる力がなければいけない。

Fools bite one another
but wise men agree together.

意味

愚かな者たちは、噛みつきあうが、賢人たちは互に同意する。

解説

another と together が韻をふんでいる。

類例

君子は争う所なし（君子無所争—論語）

- ◆古代中国であれ、西洋近代であれ、このことばの言わんとしている内容は同じである。——愚かな集団では、内部で互に批判しあい、意見がまとまらないが、賢い人たちの集団では、互に相手の立場や能力を認めあい、協力しあうので、より生産的な集団になっていく。

このようにして社会では、勝ち組と負け組の差が広がっていく。しかし勝ち組でも、その地位が常に安定しているわけではない。社会変化への対応ができなかったり、世代交代に失敗したりすれば、弱体化し、転落していく。

Forewarned is forearmed.

★ forewarned (前に to be が省かれている)

「あらかじめ警戒すること」「前もって注意すること」

★ forearmed 「あらかじめ武装すること」

意味

あらかじめ警戒することは、あらかじめ武装することである。

解説

武装なしに警戒していても、あまり意味がない。平和な町や村が、ある日突然侵略、略奪される歴史は、東西で繰り返されてきた。物語でも防備の弱い集団が襲われる悲劇が、たくさん残っている。(たとえばミツエキヴィッチのバラッド「シュヴィッツ」は、リトアニアの小さな町が、騎士たちの留守中、突然ロシア軍に襲われ、女性や子どもとともに町全体が湖になってしまう物語詩である)

日本でも弥生時代の集落の遺跡から、生々しい戦争のあとが発掘されている。

ヨーロッパなどでは、古くから町は城壁や楼門で囲まれ、兵によって守られてきた。ラテン語で次のようなことわざがある。

類例

Si vis pacem, para bellum.

(平和を欲するなら戦いに備えよ)

これは、英・独・仏など近代語に訳され、今日まで伝わっている。
英語では “*If you want peace, prepare for war.*”

類例

In time of peace, prepare for war

- ◆平和時に戦争に備えよ。
- ◆中国にもこれとよく似たことばがある。

類例

治而不忘乱 (易経) 治に居て乱を忘れず。

- ◆もちろん平和を求めることは大切。平和を保持することも大切。しかし戦争の悲惨さを忘れず、常に備えておくことも必要である。いつの世になっても、暴力に訴える人間が絶えない。
- ◆今は昔とちがいで、国際社会には、集団安全保障のほか、何重にも戦争にたいする防波堤が構築されている。
- ◆とはいえ、隙間も多い。富と繁栄に酔い、警戒心が薄れた平和ボケは危ない。

類例

Security is the greatest enemy.

- ◆安全 (と思うこと) が最大の敵。
- ◆この種のことわざは、東洋より西洋に多い。

Fortune favors the bold.

- ★ favor 「好意を示す」「支持する」「助ける」
- ★ the bold 「度胸のある人」 bold は無作法でずうずうしいほどの「勇気のある」「大胆不敵な」

意味

幸運は度胸のある者に力を貸す。

解説

気の弱いものに対しては、幸運の女神は頬笑まない。

類例

None but the brave deserves the fair.

- ★ brave 「(敢然と立ち向かう) 勇気のある」
(なお courage は気高い勇気)
- ★ deserve 「受けるに足る」「…に値する」
- ★ the fair 「美人」
- ◆ 勇気ある者だけが美人を得るに値する。
- ◆ ひっこみ思案の男が美人を得るに値しないように、消極的な人はなにをやっても運に恵まれない。ここ一番というときは、しっかり勇気を出しなさい、の意。

Good wine needs no bush.

★ bush 昔、居酒屋の看板に使った「つたの枝」

意味

良酒に看板は不要。

解説

良品は宣伝しなくても自然に人が求めるようになる、と。
日本や中国の類例は、良品のことを語りながら、すぐれた人材のことをいう場合が多い。

類例

桃李ものいわず、下おのずから蹊をなす（桃李不言，下自成蹊—
史記）

◆桃やすものように何も語らなくても、徳のある人の所には、自然に多くの人が集まるので道ができる。

類例

るり 瑠璃も はり 玻璃も照らせば光る

★「るり」は、もと古代インドや中国で珍重された青色の宝石。
仏教でいう「七宝」（七種の宝玉）の一つ。「はり」は「水晶」。

意味

るりも、はりも、光をあてれば輝きだす。

◆すぐれた素質をもった者は、その存在が人に知られ、機会が与えられ
ると、真価を発揮する。

参考

ふくりゅうほうすう 伏竜鳳鸞（十八史略）、がりょう 臥竜鳳鸞

意味

水中に隠れ伏している竜と鳳凰のひな

◆才能がありながら世間に知られていない大人物。

Haste makes waste.

意味

急げば、むだが生ずる。

解説

日本にはこの種の類例が多い。

類例

急いでは事を仕損ずる。

類例

急がば回れ。

類例

あわてる乞食はもらいが少ない。

- ◆あわてると実力が発揮できない、とか、不完全燃焼を起こす、とか、利益が薄い、とか、あわて者をいさめることが多い。
- ◆たしかに遠まわりのようだが、じっくり待って力を蓄えてから事にかかる、という発想はとくに平和な時代にむいている。
しかし乱世や短期決戦の時代はどうだろうか。ラテン語のことわざ“Festina lente”（ゆっくり急げ）が思い合わされる。

He who would the daughter win
must with the mother begin.

★ …would the daughter win = …would win the daughter 「娘を得たいと思う…」

(語順が入れ替わっているのは、the daughter を強調するため、というより、むしろ win を文の中ほどに置き、文末に置いた begin と韻をあわすため。)

意味

娘を得たいと思う男は、まず母親から始めるべきだ。

解説

このことわざは、よく南欧的な笑い話の種にされている。母親がその気になってしまって男が困る話など。しかし、主旨はものごとの手順についての教訓である。でもその点では、東洋のことわざの方が、より一般的に使われる。

類例

将を射んと欲すれば馬を射よ

(杜甫「射人先射馬」より)

◆人を屈伏させるには、まず、その頼りにしている者を攻略するのが近道、という。しかし英国には、攻める手順や段取について、さらに含蓄のあることわざがある。

類例

Think on the end before you begin.

- ◆始める前に終わりのことを考えよ
- ◆2手や3手先を読むだけではダメで、最後にどう結着させるかを考えてから、ことを始めよ、という。

High places have their precipices.

★ precipice 危険な「崖」「断崖」

意
味

高所には崖がある。

解
説

高名な人は、思わぬところで足をふみはずす。

類
例

高木は風に折らる。

- ◆日英ともに、地位・名声の高い人は常に嫉妬や批判にさらされている。だから倒れたり落ちたりしないよう、気を緩めないように、という趣旨。しかし西洋には、高所にいる人に対する皮肉っぽいことわざが多い。

類
例

The higher up, the greater the fall.

- ◆高く上がれば上がるほど、落ちるのも激しい。

類
例

The higher the monkey climbs, the more he shows his tail.

- ◆猿は高く上れば上るほど、お尻を見せる。
- ◆とくに育ちの悪い人は、地位が上れば、それだけ醜い面をさらけ出してしまうが、恥ずかしいという感覚に乏しい、という。

Idle folks lack no excuses.

★ lack no…「…を欠くことはない」「…ばかりする」

意味

なまけ者は、いいわけばかりする。

解説

実際仕事ができないのに、いいわけばかりする人は、人に嫌われる。

類例

Self-excuses are self-accuses.

- ◆自己弁解は自己非難。
- ◆弁解は、自分の誤ちを、自分に対して責任追及するようなもの。弁解はしないうに越したことはない。
- ◆もちろん不当ないがかりに対しては、正当性を主張することが大切。自己弁護は、自己弁解と違う。

類例

理屈と膏藥はどこへでもつく。

- ◆理屈、とくにへ理屈は、説得的な根拠のない論理のこと。

If winter comes,
can spring be far behind?

★ far behind 「はるか遠くに」

★ can…? 「…あるだろうか?」「はずがない」

意
味

冬来たりなば，春遠からじ。

解
説

英国ロマン派詩人 P. B. シェリー Percy Bysshe Shelley の有名な「西風のうた」“Ode to the West Wind” の最後の一行。冬は困難や不幸や忍耐を，春は解決，幸福，希望を暗示している。

高浜虚子の遺族が大切にしておられるという句に一

類
例

時ものを解決するや春を待つ。

◆どうしても解決できない難題も，やがて春がきて雪が解けるように，いつか，時が解決してくれる。

If you want the rainbow, you have to
put up with the rain.

★ put up with 「がまんする」

意味

虹を見たいのなら、雨をがまんしなければならない。

解説

雨の多いイギリスらしいたとえ。なにかよいことを期待するのなら、その前にいやなことも覚悟しないといけない、という。バランス感覚のあるコモンセンスがよい。

若いうちに苦労すれば、後になって報われる、という意味にもとれる。とすれば中国から来た有名な四字熟語の意味に近い。

解説

先憂後楽。

- ◆しかしもともこの中国のことばは、「上に立つものは、民に先立って憂え、民よりあとで楽しむ」という仁者（人格高潔の人）の心がけを述べたものだった。

It is never too late to learn.

★ never too late 「決して遅すぎることはない」

**意
味**

学ぶのに決して遅すぎることはない。

**解
説**

どんなに年をとっていても、学び始めるのに遅すぎるということはない。いつからでも、思い立った時に、学び始めるのがよい。一生涯学び続けるという姿勢が大切。

**類
例**

八十の手習い。(七十の, 六十の…)

◆学校を卒業したとたんに、本を読まなくなったり、勉強しなくなったりするのは最低。

Laughter is the best medicine.

意味

笑いは最良の薬。

解説

洋の東西を問わず，笑いが心身とも健康に良いことは，医学的にも心理学的にも認められているところである。

類例

笑う門には福来る。

◆リーダーも明るい人の方が良い。

Life is half spent
before we know what it is.

意
味

人生の意味がわかったとき，人生は半分終わっている。

類
例

うかうか30，きよろきよろ40。

- ◆うっかり時を過ごしているうちに30才，きよろきよろ見回しているうちに40才，と人生は半分くらい，すぐに過ぎていく。生きがいを見つけたとき，つまり生きている意味に気づいたとき，残りの人生を大切にしよう。

Man has not a greater enemy
than himself.

意味

自分より強い敵は、他にだれもない。

解説

西洋にはこの種類のことわざが多い。

類例

He is the greatest conqueror who has conquered himself.

- ◆もっとも偉大な征服者は、自分自身を征服した人である。
- ◆強烈な個性を持っている人がたくさんいるので、それを抑えるのに苦勞している人も多いようだ。

類例

He gets a double victory who controls himself.

- ★ control 「抑制する」「支配する」
- ◆自分自身にうちかつ人は、二重の勝利をえる。
- ◆日本人は子供のころから自分を抑えることを学んで育つことが多いので、下の類例のことわざや警告が必要なのは、よほどのときである。

類例

ならぬ堪忍するが堪忍

- ◆中国とくに儒教的伝統の中では、秩序の維持が大切なので、己に克つことは、私利私欲を抑えることを意味する。

類例

コッキ フクレイ
克己復礼為仁。己に克ちて礼にかえるを仁となす（論語・顔淵）

- ◆礼は、社会秩序を保つための決まりや組織。家や国を治めるためには私情を入れてはいけない、という。

Man's capacity for evil makes
democracy necessary,
and man's capacity for good makes
democracy possible.

—Reinhold Niebuhr

意味

人間の悪に向かう潜在的性質は、民主主義を必要とし、人間の善に向かう性質は、民主主義を可能にする。

—ラインホルド・ニーバー

解説

ニーバー（1892-1971）は、アメリカの神学者。彼には次のような有名な祈りのことばがある。

意味

God, give us grace to accept with serenity the things that cannot be changed, courage to change the things which should be changed, and the wisdom to distinguish the one from the other.

—Reinhold Niebuhr, 1934

意味

変えられないものについては、それらを冷静に受け入れることが出来ますよう、神よ、私たちに恵みをお与えください。変えていかなければならないものについては、それらを変えていく勇気をお与え下さい。そして変えられないものと、変えていかなければならないものとを、識別する知恵を、私たちにお与え下さい。

—ラインホルド・ニーバー

参考

大切なものは心の目でしか見えない。一渡辺 和子

Memory deteriorates if not used.

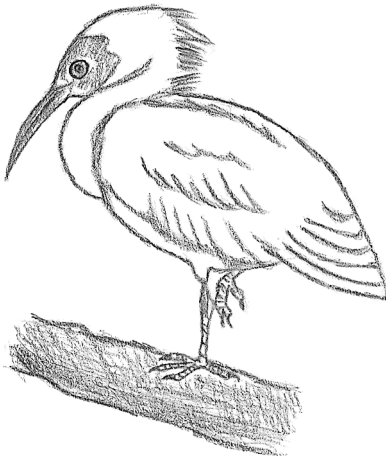
★ deteriorate 「低下する，劣化する」

意味

記憶は使わないと衰える。

解説

せっかく多くの知識を蓄積しても，使わなければ意味がない。年とともに衰えてしまうだけ。記憶力と想起力はちがう。記憶したことを常にリフレッシュすると想起力が高まり，結果，総合力が養われる。



Mercy passes justice.

**意
味**

善意は正義に勝る。

**解
説**

正義や理論だけで人は説得されない。愛や共感や情熱がなければ。

**類
例**

仁可過也，義不可過也（蘇軾）

- ◆ 仁は過ぐべく，義は過ぐべからず。
- ◆ 思いやりのある広い心は，もちすぎてもかまわないが，道理道義の行きすぎは，過酷になるからよくない。

Misfortunes never come alone.

★ misfortune 「不幸」, 「不運」, 「災難」

意味

不幸は単独ではやってこない。

類例

泣き面に蜂。

類例

傷口に塩。

◆日本の類例は、どちらも、きわめて具体的。痛みが伝わってくるほど感覚的である。

それに対して英語のことわざは、「不運」が擬人化されているとはいえ、かなり抽象的。しかし日英ともに、いわんとしていることは同じである。

◆不幸や災難は重なることがあり、そのときの衝撃は大きい。(うろたえることのないよう、よく覚悟しておこう。)しかし他方、悪いことが、また続いて起こらないように気をつけ、変な徴候があれば早いうちに対応しよう。

More than enough is too much.

意味

充分以上は多すぎる

類例

過ぎたるは猶お及ばざるが如し。過猶不及

- ◆徳川家康は、このことわざを、次のように言いかえたといわれている。

類例

及ばざるは、過ぎたるより可なり。

- ◆もし家康がいったとしたら、太平の世の中を見透したあとのことだろう。競争の激しい時代では、むしろ「過ぎたるは及ばざるより可なり」というくらいの積極性が求められる。

Nationalism is an infantile disease
of mankind.

—Albert Einstein

意味

国家主義は人類の幼児期的な病気である。

—アルバート・アインシュタイン

解説

アインシュタイン（1879-1955）は、20世紀の2つの戦争を経験したので、国家主義にはへきえきしたのであろう。

たしかに国家主義には一見美しく見える面がある。美化された民族の歴史や忠誠心、犠牲的精神など。しかし他方、国家主義には集団的依存心、群れることによる奇妙な安心感、付和雷同的な無名性や無責任性、マゾキズム、そして単純な思考様式がともなう。それらをひっくるめて幼児的と批判したのであろう。幼児的な大人たちは、身勝手に、はた迷惑だが、自分で気がつかないことが多いので困る。

Never cast dirt into the fountain.

★ dirt 「ごみ」「泥」「汚物」

★ fountain 「泉」「水源」

意
味

泉に汚物を投げ込むな。

解
説

飲み水を供給する泉は、周辺の人にとって大切なもの。

多くの人が大変迷惑することを敢えてやるなど、言語道断である。公のものは、自分が使ったあと、むしろ次に使う人のことを考えて、きれいにしておくのが当たりまえであろう。

類
例

天に唾す。

◆天に向かって唾を吐く。

◆出典の『四十二章経』には続いて「唾，天を汚さず，還つて己の面を汚す」とある。人に害を与えようとするとき、かえって自分に災害がふりかかる愚かさをいう。

類
例

人を呪わば穴二つ。

◆人を呪うなら、自分も死ぬ覚悟でいなければいけない。墓穴をもう一つ自分のために掘っておけ、という。

類
例

立つ鳥あとを濁さず。

◆これは水鳥が水面から飛び立つとき、水を濁さないように、人も去るとき、引け際を美しくしなければならぬ、という意味に使われる。いわば退場の美学。

- ◆これら日本のことわざは、人に危害や迷惑をかけないように、個人のモラルに重点が置かれているが、西洋のは、公共のものにかかわる公衆のモラルに重点が置かれている。



Never friar forgot feud.

★ friar (カトリックの)「修道士」

★ feud 「宿怨」

意
味

修道士は、決して宿怨を忘れない。

類
例

蛇と長袖のたたりは怖い。

◆長袖とは僧侶のこと。洋の東西を問わず、聖職者には執拗に人を怨んだり復讐を企てたりするものがいるので、気をつける必要がある。もちろん聖職者には人格者も多い。しかし中には、とんでもない人がいることも確か。ダンテは『神曲』の中でそういう偽善者をたくさん地獄に落としている。

No divinity is absent
if prudence is present.

★ divinity 「神」 prudence 結果を見とおした「慎重さ」

意
味

慎重さがあれば、神は見捨てない。

解
説

熟考の大切さを説いたもの。なにごとくも熟考せず、軽率にことにあたり続けられれば、神から見はなされ、大失敗のうき目にあう、と。absent と present と対照的なことばを並べて韻をふませている。

日本にも宗教性は希薄だが、より実際的なことばがある。

類
例

事を遂げんには、勇まずして万事を咎めざれ。

- ◆大きなことを成功させるには、勇み立ってはいけない。また大事の前の小事にこだわったり、ことを荒立てて騒いだり、まして仲間を非難したり、制裁を加えたりしてチームワークを乱すようなことは、けっしてよくない。万事おだやかに進めなさい。さもなければ、大事業は達成できません。

Not in bread alone does man live.

意
味

人はパンのみによって生きるにあらず。

解
説

新約聖書マタイによる福音書第4章第4節。

人が生きていくうえでも、ちろん食べ物が必要である。しかしそれだけでは精神的な渇きが満たされない。心の深いところにある渇きが満たされるためには、神のことばが必要である、というのが本来の意味。

Nothing ventured, nothing gained.

★ nothing ventured = If nothing is ventured

venture 危険をおかしてことを行う。

意味

危険をおかしてことを行わなければ、なにも手にはいかない。

解説

リスクを回避してばかりいては、大きなことはできない。前向きに度胸をすえてかかれ、という。これに似た東洋のことわざは、視覚的かつ比喩的で、強烈な印象が残る。

類例

虎穴にいらざんば虎兎を得ず

(不入虎穴，不得虎子—後漢書)

Nurture passes nature.

★ nurture 「養育」「教養」

★ nature 「生まれつきの素質」

**意
味**

育ちは生まれより大切。

**解
説**

親ゆずりの才能や能力も大切だが、その後の教育がもっと大切だという。

**類
例**

氏より育ち。

◆日本のことわざは、血筋や家柄も大切だが、しつけや環境など、育てられ方が大切、という。人柄に対応させているのは、家柄である。英語のことわざでは個人にもっと目が向けられている。個人のもって生まれた性質や能力も大切だが、その欠点を補い、長所をのばすのは、その後身につけていく技や教養なのだという。

しかし、日・英どちらも、生まれた後、身につけていく部分の大きさをいっている点では、共通している。

One for all and all for one.

意味

一人は皆のため、皆は一人のため。

解説

共同社会は、皆がそれぞれの能力を出しあい、支えあって、はじめて成り立つ。身体の各部分が互いに補いあい、痛みをわかちあって協力しているように、学校も、地域社会も同じ、スポーツチームも同じことである。

一人の人間は、皆のためにある、皆は一人のためにいる、という気持ちが大切。アメリカ独立戦争直前にうたわれた「自由の歌」“The Liberty Song”に次のような句がある。

類例

United we stand, divided we fall. —John Dickinson

★ United 前に If we are を補うとわかりやすい。「われわれが団結すれば」

意味

一致団結すればわれわれは勝つ。分裂すれば倒れる。

解説

ジョン・ディキンソン (1732-1808) はアメリカの政治家。

One hates not the person
but the vice.

意
味

人を憎まず，悪を憎む。

類
例

罪を憎んで人を憎まず。

- ◆悪事を働いたものを罰することは，社会秩序や治安維持のため必要。
しかし，いったん罪が許された人をその後も憎み続けると，その人は更生できず，また悪事を働くことになる。

生まれながらの悪人はいない，悪を働くものは，なんらかの事情や環境によることが多いという性善説に基づくことわざ。

- ◆でも世の中にはどうしようもない人間がいることも，確かである。
しかし，心を入れ替えて，新しく正しい人生を歩む人もいる。そのような人が多いことを望みたいものである。

Pride goes before destruction.

★ goes before… 「……の先を歩む」「……が続いてやってくる」

意味

傲慢の後には、破滅がやってくる。

解説

ゴーマンな生き方をしている者は、必ず滅亡する、という。日本や中国のことわざは、同じ内容でも、独断的でなく、歴史的、文学的表現をとっている。

類例

おごる平家は久しからず。

類例

夜郎自大

◆「夜郎」は中国貴州省北西部にいた部族の名。「自大」はおごりたかぶり、尊大な態度をとること。

昔、夜郎族のトップが、漢の使者に向かって、自分たちの国と漢の国とでは、どちらが大きいか、と尋ねたという。

Reading makes a full man, meditation a
profound man, discourse a clear man.

**意
味**

読書は完全な人をつくる。

黙考は深遠な人をつくる。

対話は明瞭な人をつくる。

**解
説**

人が成長するには、読書も黙考も対話も大切という。日本には、これに類した名言がない。あえてつけ加えるなら、上記の補いとして—

**参
考**

人の意見は40まで

- ◆いくらよいアドバイスをして、聞き入れられるのは40才まで。それを過ぎたあと、どれくらい成長するかは本人次第。

Seldom cometh loan laughing home.

★ cometh = (古) comes

意味

貸した金は、めったに笑いながら帰ってこない。

解説

金を貸したときには喜ばれるが、返済を求めるときには、むつかしい顔をされる。それでこそか、恨まれたり暴力を加えられたり、ろくなことはない。安易に人に金を貸すな、という戒めは、西洋にも日本にもある。

類例

借るときの地蔵顔，^な済すときのえんま顔

類例

Lend your money and lose your friend.

- ◆ 『ハムレット』の中で、ポローニウスが息子の留学を前に別れのこ
とばを述べる場面があるが、その中にも、次のようなせりふがある。

類例

Neither a borrower nor a lender be

For loan oft loses both itself and friend.

And borrowing dulls the edge of husbandry.

金の借り手にも貸し手にもなるな／貸せばしばしば金も友も失うもの。
／借りてばかりいれば儉約しようという気持ちも鈍ってしまう。

Speech is the picture of the mind

意味 ことばは、心の絵。

解説 ことばは、その人の心を鏡のように映し出す絵だという。

類例 ことばは身のあや

◆ことばは、その人の品位をあらわす。美しい心からは、美しいことばが流れ出る。醜い心からは、汚いことばが出てくる。それは一般にいわれているとおりである。

しかし、ことばと心との関係はもっと微妙である。美しいことばは、かならずしも美しい心の反映とは限らない。

類例 こうげんれいしよくすくな
巧言令色鮮しかな仁。(巧言令色鮮矣仁—論語学而篇)

◆巧みに美しいことばを使ったり、やさしい顔つきをしたりするのは、仁の欠けた証拠だという。

◆心は見えないから、いったん口から出たことばは、いろいろに解釈される。要注意。

ことばに関する中国、日本のことわざに次のようなものもある。

類例 りんげん
綸言、汗の如し

◆綸言は「天子のことば」。汗がいったん身体から出してしまうと、体内に再びもどらないように、天子のように偉い人のことばは、いったん口から出してしまうと、もう取り返すことができない。

Still waters run deep.

★ waters 「川」「流れ」

意味

静かな川は、流れが深い。

解説

深い川がゆったり流れるように、深い考えを持った人は、多少のことに動じない。

日本のことわざに反対から見たものがある。

類例

浅瀬^{あだ}に仇波。

- ◆浅瀬を流れる川は、さわがしく波が立つ。そのように浅薄な人間は騒ぎ立てることが多い。しかしさまざまな人生経験を積み、深い知識や洞察力を持っている人は、ものごとに動じない、という。中国にもよく似たことわざがある

類例

空樽能鳴

- ◆空っぽのタルは、よく鳴る。という意味で、中身のない人間はよくしゃべることを比喩的に言っている。英語にはさらに直接的な表現もある。

類例

An empty sack does not stand.

- ◆空っぽの袋は立たない、という。教養にしろ、財産にしろ中身の無いものは、しっかり立ってられない、の意。

参考

音をたてる比喩はよく似ているが、全く異なる内容のことばを、参考までに。坂本竜馬は西郷隆盛を評して「西郷さんは大きくたたけば大きく響き、小さくたたけば小さく響く人だ」といった、という。

Take time by the forelock.

★ time 「時」「チャンス」時の神様は、頭の前の部分には髪の毛が生えているが、後頭部は禿げているという。

★ forelock 「前髪」

意味

チャンスは前髪でつかまえる。

解説

時の運はこちらに向かって近づいてきているときに、すばやく前髪をつかむように、つかむのが良い。去っていくときには、いくら追いかけても、後頭部がつるつるなので、つかまえるのは甚だ困難。

チャンスはタイミングが大切。いくらよい情報を持っていたり、強大な軍事力を持っていたり、総合的計画力をもっていたりしても、タイミングが悪いと成功しない。チャンスをつかまえる冴えたカンがなければダメ。遅れてもダメだが、急ぎすぎてもいけない、という。

類例

あわてる乞食はもらいが少ない。

◆英語には、もう一つ似たようなことわざがある。

類例

Fortune knocks once at least at everyone's gate.

◆幸運は少なくとも一度はあらゆる人の門をノックする。

The best government is that
which governs least.

意味

最良の政府は、最小の政治を行う政府である。

解説

もっともよい政府は、最小の政治しか行わないものだという。これはトマス・ジェファソンのことばといわれているがソースは不明。しかし、いっている内容は重要である。

政府がなければ秩序は保てない。しかし政府を維持するために国民の負担が大きくなりすぎると、国力が衰える。

アメリカの保守的な政治手法の一つは、できるだけ国民の良識を信頼し、政府をスリム化し、常に減税を試み、個人の活力を引き出そうとすることにあるようだ。

The boughs that bear most hang lowest.

意味

もっとも多く実をつける枝は、もっとも低く垂れる。

類例

実るほど頭を垂れる稲穂かな

類例

実る稲田は頭垂る

- ◆学問が深まったり、地位が上がったり、資産ができたりすればするほど、人は謙虚になるのがよい。

内容も表現も、日英ともによく似ている。ただ同じ比喩的表現でも、日本では稲を、むこうでは果物の木を、用いている。枝が垂れる姿と腰をかがめる動作とは、あまり似ていないが、実った稲が頭を下げる姿はいかにも人がお辞儀する姿とよく似ているので、比喩としては、日本の方が上だろう。

少し社会的評価が高くなっただけで、鼻を高くしたり、おなかを突き出したりする人は、日英ともに、品位を疑われる。

The devil dances
in an empty pocket.

★ pocket ものや知識を入れておくような「ポケット」「財布」

意味

空のポケットで悪魔が踊る。

解説

ポケットが空だと悪魔が忍び込んで踊りだす、という。つまり金や智恵がないと、つい悪にそそのかされやすい。

◆日本の類例よりドラマティックで比喩的。

類例

貧すれば鈍する。

◆貧と鈍が軽く韻をふんでいて音のおもしろさがあるが、内容はほぼ同じ。

The eyes have one language
everywhere.

**意
味**

目は、世界中どこでも通じることばで語る。

**解
説**

少しニュアンスは違うが、日本にも似た表現がある。

**類
例**

目は口ほどにものをいい。

- ◆英語のことわざは、目が語ることばの万国共通性を強調している。日本語のほうは、視線にこめられた意味の深さをいっている。しかし、どちらも目の雄弁さを表現している点では同じである。
- ◆たしかに目は多くのことを伝えることができる。しかし、もちろん限界がある。文字やことばでの豊かな表現力を身につけることも大切である。

The honest man, the worse luck.

意味 正直な人がかえって運が悪い。

解説 このようなことわざが西洋にもあると知って、悲しくなる。しかし、もちろん日本にも類例がある。

類例 正直者が馬鹿を見る。

◆正直であることが大切であり、基本的なモラルだということは皆よく知っている。

参考 *Honesty is the best policy.*

参考 水清ければ月宿る。

しかし、不要なことまで正直に口に出して人を傷つけたり、不用意に行動を表して、人と衝突したりするために、不運を呼び寄せてしまうことも多い。真っ正直な人は、とくに自分が置かれている立場や位置を考えることも必要、という警告のことばと考えたい。

類例 水清ければ魚住まず。

The people's voice is the voice of god.

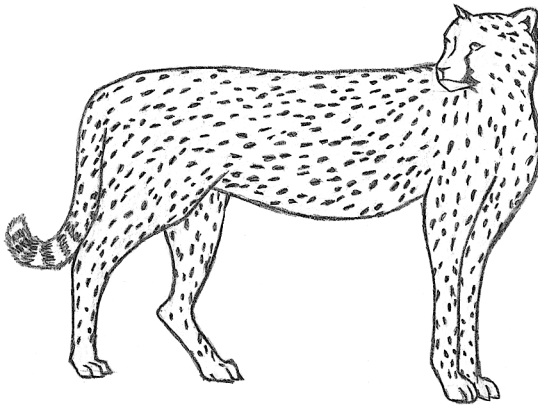
意味

人民の声は神の声

解説

もともとラテン語の“Vox populi, vox Dei”ということばの英訳。

◆世論を無視する政治家は、大失敗する。



The pot calls the kettle black.

- ★ pot シチューなどを作る「(深い) なべ」
- ★ kettle 湯を沸かす「かま」「やかん」
昔はどちらもススで黒かった。
- ★ call 「呼ぶ」ここでは「嘲笑的にいう」「呼ばれる」

意味

なべがやかんを黒いと嘲る。

解説

同じように黒く汚れているのに、なべが、やかんのことを、黒いと嘲るように、自分のことを棚にあげて、相手を笑ったり、軽蔑したりするのは、見苦しい。

この英語のことわざの源泉は、スペインの作家セルバンテスの『ドン・キホーテ』の初期の英訳だとドナルド・キーンは書いている。(『日英故事ことわざ辞典』北星社)

しかし、イランやアフガニスタンにも同じようなことわざが存在するようだ。「鍋がもう一つの鍋に向かってお前の顔は黒いぞという」(『世界の故事、名言、ことわざ総解説』自由国民社)

イランやアフガニスタンからアフリカを經由してスペインに入り、やがてイギリスに渡ったものか、それとも逆にスペインから中近東に行ったのか、あるいはまた、他の文化圏からスペインと中東に、そしてイギリスに伝わったのか、確かめる手段を持たない。しかし、世界の他の地域の文化(ことわざをふくめて)を取り入れて自国の文化の一部にしてしまうのは、日本や英国

だけのお家芸ではない。世界中どこでも見られる現象である。

日本の類例に「目くそ鼻くそを笑う」ということわざがある。小物どうしが嘲笑しあうおかしさをいいあてている。また「青柿，^{じゅくし}熟柿を弔う」ということわざがある。青柿もやがて熟して落ちる運命にある。「猿の尻笑い」というものもある。自分の尻が赤いことに気づかず，他の猿の尻の赤いのを笑う。この他にも日本にはこの類例が数多くある。至らないものが自分の欠点や無知に気づかず，自分とあまり変わらない相手を批判，中傷することに対し，日本人は特に厳しい視線を浴びせる傾向があるようだ。

The scholar may be better
than the master.

★ scholar 「学生」「弟子」

★ master 「先生」「師匠」

意味

弟子が師匠を越えることもある。

類例

しゅつらん
出藍のほまれ。

- ◆ 「青は藍あいより出でて藍よりも青し」から出たことば。藍で染めあげた布は、染料の藍よりさらにさえた美しい青にしあがる。そのように染められたものが、染めるものより、立派になるのは、めでたいこと。
- ◆ 日本のことわざは、比喩的で視覚的であるが、英語のは直接的。だが音楽的である。(弱強調のリズムで整え、その上 **better, master** と韻をふませている。)
- ◆ 師匠が弟子を育てるとき、自分のコピーを作ってしまうことが多いが、これはよくない。自分を越えるように指導すべきである。弟子も師匠のまねをしようとするが、いつまでもこれではよくない。師を越えるよう努力しなければいけない。しかし、なかなか師を越える才覚を持った弟子が現れないのも確か。でも中にはすぐれた弟子もいるものである。

The sea refuses no rivers.

★ refuse 「拒否する」

意
味

海はどんな川も拒まない。

解
説

海がどんな川でも受け入れるように、偉大な人物はどんな人間でも包み込んでしまう。

類
例

清濁あわせて呑む。

- ◆日本の場合は、清と濁だが、英語の場合は、多種多様な文化的背景を持った人間をすべて受け入れる、というスケールの大きいニュアンスがある。

The winds and waves are always
on the side of the ablest navigator.

—Edward Gibbon

★ are …on the side of ~ 「～の側に立つ」「～に協力する」

意味

風や波は、常にもっともすぐれた航海士に力を貸す。

解説

自然の猛威の中でも、航海術をよく心得ている人は、船をうまく操縦することができる。それどころか強風を逆手にとって速く走らせることもできる。

そのように、人生の嵐の中でも、人間の心の動きや社会のしくみをよく理解している人は、解決策をあみ出し、危機をのり越えることができる。それどころか、それを幸運に変えることもできよう。

エドワード・ギボン (1737-94) はイギリスの国会議員、古代史家。

類例

ピンチはチャンス。

There is no crying over spilt milk.

★ There is no ~ing 「しても、しかたがない」

★ spilt 「こぼれた」

意味

こぼれてしまったミルクに泣き叫んでも、仕方がない。

類例

覆水盆にかえらず。

◆大事なもののもとに戻らなくなったときは、惜しいけれども諦めるしかない。人間関係でも同じこと。

類例

破鏡再び照らさず

◆これはとくに別れた男女のことをいう。
江戸のことわざに次のようなものもある。

類例

らっか えだ
落花枝に帰らず

◆これも同じ趣旨のことわざである。とくに男女の関係がこわれたときありにいう。しかし、これよりも、これをふまえて書かれた荒木田武あらかきただけ有の俳句のほうが有名である。「落花枝に帰るとみれば胡蝶かな」これはエズラ・パウンドが現代詩作法の一つ「重置法」をみ出したとき、この俳句のフランス語訳か、英語訳が彼の念頭にあったのではないか、といわれているものである。

Un petal tombe

A petal dropped

Remonte a sa branche;

Rises to its branch

Ah! c'est un papillon!

Oh! it is a butterfly

(Paul-Louis Couchoud)

There's many a slip between
the cup and the lip.

★ slip 「つまづき」「すき間」 lip と韻をあわせている。

意
味

カップとくちびるの間にはすき間がいっぱいある。

解
説

カップをもちながら談笑している人の姿が目に見えるようだ。腕の長さくらい、ほんの短い距離だけれども、注意を怠ると、その間、飲み物をこぼしてしまう。そのようにわずかなすき間にも、うっかりすると失敗が入りこむ。(たとえば、うっかり洩らしたことは、など) それは大きな災いのもとになる。日本のこれにあたることわざは、一見、まったく違うようにみえる。

類
例

事がのびれば尾ひれつく。

◆ 決着をつけるのが遅れると、いろいろな意見や憶測や噂が出て、収拾つかなくなる、の意。しかし英語のことわざも、さっさと飲むべきものは飲んでしまいなさい、ぐずぐずしていると、ろくなことがない、の意だから、日英同じ事をいっていると考えてよい。

類
例

好事魔多し
月にむら雲，花に風

Those who win are those
who think they win.

意味

勝つ人は、勝つことを信じている人である。

解説

最初から負けると思って戦えば、負けて当然。実力や勝負運に自信を持つことが、勝利を手にする条件、という。

「これでよい」とか「ラッキー！」とか「きっと勝てる」とか自己暗示をかけて、うまくいく人も多い。

Today is the first day
of the rest of your life

★ the rest of your life 「あなたの人生に残された日々」

意味

今日はあなたの人生に残された日々の第一日目だ。

解説

そう思って毎日を大切に過ごせという。だが、同じような趣旨のことわざには、陳腐なものが多い。

類例

Time is money.

Life is short, art is long.

◆しかし中国には何度読んでも味わい深いことばがある。

少年易老学難成

少年老い易く、学成り難し

一寸光陰不可軽

一寸の光陰、軽んずべからず

未覚池塘春草夢

未だ覚めず、池塘春草の夢

階前梧葉已秋声

階前の梧葉すでに秋声

大意は、若者はすぐに老いてゆくが、学問を究めることはなかなか難しい。ほんの少し陽の光が動く時間も、軽んじてはいけない。池の堤の春草の上で見た夢からまだ醒めないのに、階段のあたりの青桐の葉はすでに秋の音を奏でている。

中国にはまた次のようなことばがある。

類例 湯之盤銘日 苟日新日日新又日新 (大学)

湯の盤の銘にいわく、まことに日に新たに、日々新たに、また日に新たに。

- ◆盤は大型の洗面器のような器で、昔、洗面、沐浴、あるいは儀式に用いられたのではないかといわれている。青銅製のものが残っている。殷の時代の湯王が使っていた盤には「日新日日新又日新」と刻まれていたという。一国の王が毎日それを目にしながら心身を潔めていたと考えるだけで、うれしいと思う人も多いだろう。

アメリカの詩人エズラ・パウンドもその一人だった。彼の長詩『キャントウズ』の中に“Day by day make it new”と書き込んだり、自分のエッセイ集に *Make It New* というタイトルをつけたりしている。

Tread on a worm and it will turn.

★ tread on 「ふみつける」ここでは、命令形なので、「ふみつけてごらんなさい」…そうすれば、と続く。

★ turn 「むかってくる」

意味

虫でも踏みつければむかってくる。

解説

小さな存在でも、悔ったり、おどしたりしてはいけない。まして力で押さえつけるようなことをしてはいけない。報復を受けることになる、という。この奥には「目には目を、歯には歯を」といった報復の原理がある。それに比べ、よく似た日本のことわざは背景の思想や宗教が違う。

類例

一寸の虫にも五分の魂。

◆無視されがちな者でも軽視してはいけない。小さくても魂をちゃんともっているのだから、という。魂に大小の差はないという。

◆なお、英語の worm は、昆虫は含まれず、主にミミズやウジなどの足のない虫を指す。

“Even a worm will turn” とか “The worm will turn” とかいった表現もある。

Vainglory blossoms but never bears.

★ vainglory 「うぬぼれ」「虚栄心」 bear 「実をむすぶ」

意味

虚栄は花を咲かせても、実をむすばない。

解説

実力がともなわないのに見栄をはる人は、すぐに見透かされ、やがて成果をあげることもなく、落ちぶれていく。

類例

見かけばかりの空大名

- ◆いばって、かっこうをつけているが、実情は火の車の江戸期の大名をからかったことば。
- ◆日英とも世間体を気にして見栄をはるより、中味を充実する方に力を注いだらどうですか、という趣旨。そのためには、虚栄心を、向上心にかえるのがよい。

We do not inherit the land
from our ancestors;
we borrow it from our children.

★ inherit 「相続する」

★ land 「土地」ここでは日本の宅地のような小さなものではなく、アメリカらしい広大な土地をイメージしている。

意味

土地は相続によって祖先からもらったものではない。子孫から借りているのだ。

解説

アメリカ・インディアンのことわざである。土地は自分たちが所有していると思っているかもしれないが、自由勝手に使ったり、まして環境を破壊したりしていいものではない。

それは先祖から預かっているもので、そのうち必ず人類の子孫のために返すべきものであるから、祖先とともにそこに長年生息していた動植物も含め、自然環境を大切にしなければならない。

土地は自分のものだと思っはいけない。

What is worth doing is worth doing well.

意味

やる価値があるものは、みごとにやってのける価値がある。

解説

やってみようと思いついたものは、完成する価値があるのだから、決して中途半端で投げ出さず、最後まで努力してやりとおすことが大切。やる価値のないものは、最初からやる必要がない。しかし、やる価値があると判断した以上は、忍耐強く、あらゆる障害をのりこえて、完成までこぎつけるべきだろう。イギリスの政治家・文人フィリップ・チェスターフィールド卿（1694-1773）の名著『息子への手紙』より。

関連したことわざがある。

類例

If you want a thing well done, do it yourself.

- ◆ことをうまくやり遂げたいならば、自分でやれ。
- ◆人にほめられるくらい、りっぱにやり遂げようと思ったら、人にまかせず、自分でやりなさい。一人でできないような大きいプロジェクトなら、企画・実行段階から積極的にかかわりなさい。

When making an axe handle,
the pattern is not far off.

★ axe handle 「斧^{おの}の柄^え」

★ pattern 「モデル」「見本」

意味

斧の柄を作るとき、そのモデルは手近なところにある。

解説

木を削って斧の柄を作るときには、自分の手で握っている斧を見ればよい。それが手本だ。そのように師とする人もすぐ近くにいます。

アメリカの詩人ゲーリー・スナイダー（1930-）の“**Axe Handle**”という詩の中に、エズラ・パウンドのことばとして出てくる。スナイダーが、自分の息子のために斧の柄を作ってやっていると、ふと、このことばを思い出したという。そして中国の晋の文人、陸機（261-303）の『文賦』の序文にも似たようなことばがあったことを思い出し、続いて、昔カリフォルニア大学の学生だったころ、このことばを教えてもらった陣土驥先生のことばに思いを馳せる。そしてパウンドは斧だった。陣先生も斧だった。今は自分も斧。息子は柄だ、と結ぶ。

なお中国には、『詩経』の中に「柯^かを伐^きる」ということばがある。柯は斧の柄のことで、「手本となるものは、なにも遠くに求めないでも、すぐに近くにあるものだ」の意。

When work is a pleasure, life is a joy.
When work is duty, life is slavery.

**意
味**

仕事が楽しみであるとき、人生は喜びであり、仕事が義務であるとき、人生は奴隷である。

**解
説**

仕事は楽しいと思ってやらないといけない。
つらいと思いながらやっても、よけいつらくなるだけである。



Where there is a will, there is a way.

★ will 「意志」「意欲」「志」

意味

意志あるところに道は開ける。

類例

精神一到^{いっと}，何事か成らざらん（朱子語類）

- ◆ 一生懸命心をこめてやれば、なにごとも、できないことはないだろう、という。いいことばだが戦中派にとってはこの精神一到は苦い思い出の多いことば。モノがない時代。精神でもってやり遂げることが執拗に要求された。竹やりで突く練習がよい例である。できなければ、たるんでいる、とか、心が入っとらん、と、なぐられたものである。そのあげくみじめな敗戦。あの「精神主義」はもうたくさんというところである。
- ◆ しかしモノが豊かになった今、「やる気」とか「ど根性」といった精神面を強調することばが、妙に新鮮に聞こえるのはふしぎな気がする。やはりモノや技術だけではダメ。精神面も大切。

類例

為せば成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり

YOUTH

Youth is not a time of life, it is a state of mind.

It is a temper of the will, a quality of the imagination, a vigor of the emotions, a predominance of courage over timidity, of the appetite for adventure over love of ease.

Nobody grows old by merely living a number of years; people grow old by deserting their ideals.

Years wrinkle the skin, but to give up enthusiasm wrinkles the soul.

Worry, doubt, self-distrust, fear and despair—these are the long, long years that bow the head and turn the growing spirit back to dust.

Whether seventy or sixteen, there is in every being's heart love of wonder, the sweet amazement at the stars and the starlike things and thoughts, the undaunted challenge of events, the unfilling childlike appetite for what next, and the joy and the game of life.

You are as young as your faith, as old as your doubt; as young as your self-confidence, as old as your fear, as young as your hope, as old as your despair.

So long as your heart receives message of beauty, cheer, courage, grandeur and power from the earth, from man and from the infinite so long as you are young.

When the wires are all down and all the central place of your heart is covered with the snows of pessimism, and the ice of cynicism, then you are grown old indeed and may God have mercy on your soul.

—Original poem by Samuel Ullman

Edited by John W. Lewis

意味

青春

青春とは、人生のある時期をさすのではない。青春とは心の状態をいうのだ。それは、強靱な意志、豊かな想像力、燃え上がる情熱を持つことである。臆病を退け、勇気を重んじ、安楽を求めず、冒険心を尊ぶことなのである。

長い年月を生きてきたから、人は老いるのではない。理想を捨てるから、人は老いるのだ。年月は皮膚にしわを寄せる。しかし、情熱を失えば、魂にしわがよる。

心配、猜疑心、自信喪失、恐怖、絶望——これらは、長い年月の間に、首をうなだれさせ、生き生きしていた魂を土くれに返してしまう。

70歳であれ、16歳であれ、すべての人間には、不思議なものを愛する心、星や、星のようにきらめく存在や高い思想に憧れる心がある。いろいろな出来事に、ひるむことなく立ち向かうチャレンジ精神がある。だれでも、子供のように何時までも満たされない欲求をもちつつ、わくわくしながら、次にやってくるものを待ち望み、人生の喜びや、勝負の機会が訪れるのを待ち構えているのだ。

人は信念を持っていれば、それだけ若く、疑いを抱けば、それだけ老いる。自信を持てば、それだけ若く、怯えるならば、それだけ老いる。望みを持てば若く、望みを失えば老いる。

あなたの心が、大地から、人から、そして神から、励ましや、美のメッセージを受け取り、果敢な勇気、壮大な心意気、溢れる力を与えられるならば、あなたはそれだけ若くなる。

送電が途絶え、それらが枯渇して、心の真ん中に悲観の雪が

積み、冷笑の氷が張り詰めるならば、気の毒だが、あなたは本当に年老いてしまう。そのときは、ただあなたの魂が安かれと、神に哀れみを請い希うばかりである。

—サミュエル・ウルマン原作，ジョン・W・ルイス加筆

解説

サミュエル・ウルマン (1840-1924) は、ドイツ生まれのアメリカ作家・詩人。原詩を削って加筆し、今の形に整えたのは、ジョン・W・ルイスである。この散文のような詩を、戦後東京でマッカーサーが、司令部の自室の壁に飾っていたという。その後一時期、財界人の間で、広く読まれていた。

ここには、老いに立ち向かうアメリカ人らしい壮烈な意気込みがある。老化を拒み、いつまでも青春のような理想や情熱や好奇心をもち続けることが大切だという。

しかし日本の伝統的な老いに対する考え方はちがう。自然に逆らわず、すなおに老いを受け入れようとする。それは次の作者不明の唄「ぼけたらあかん長生きしなはれ」によく表れている。——今まで歩んできた人生は、それでよかったと考え、若い世代にまかせた後は、出しゃばらず、他人をほめ、感謝をもって老年を過ごそうとする態度である。

参考

ぼけたらあかん長生きしなはれ

年をとったら出しゃばらず
憎まれ口に泣きごとに
人のかげ口愚痴いわず
他人のことはほめなはれ

聞かれりゃ教えてあげても
知ってる事でも知らぬふり
何時でもアホでいるこっちゃ

勝ったらあかん負けること
いづれお世話になる身なら
若いもんには花もたせ
一步下がってゆずるのが
円満に行くコツですわ
何時でも感謝を忘れずに
どんなときでもヘエおおきに

お金の慾を捨てなはれ
なんぼぜに金あってでも
死んだらもって死ねまへん
あの人はいえ人やったと
そないに人から云われるよう
生きてるうちにバラまいて
山ほど徳をつみなはれ

というのはそれは表むき
ほんまはぜにを離さずに
死ぬまでしっかり持ってなはれ
人にケチやと云はれても
お金があるから大事にし
みんなベンチャラ云ってくれる
内証やけれどほんまだっせ

昔の事はみな忘れ
自慢ばなしはしなはんな
わたらの時代はもう過ぎた
なんぼ頑張り方んでも
体がいうこときまへん
あんたはえらいわしやあかん
そんな気持ちでおりなはれ

わが子に孫に世間さま
どなたからでも慕われる
ええ年寄りになりなはれ
ボケたらあかんそのために
頭の洗濯生きがいに
何か一つ趣味もって
せいぜい長生きしなはれや

第Ⅱ部

英語のことわざ・名言

—その考察に関わる方法論の研究ノート—

河 内 清 志

目 次

1. ことわざの定義	93
2. ことわざの分類	99
2.1 ことわざの Topic の分類	99
2.2 ことわざの教訓としての分類	106
2.3 その他のことわざの分類	108
3. ことわざの解釈	109
3.1 対照的なことわざ	109
3.2 ことわざに対する両義・あいまい・誤用	111
4. ことわざの実用とパロディ	112
4.1 IT 関連のことわざ	112
4.2 Murphy の法則	114
4.3 ヘッドラインやキャッチフレーズとしての パロディー	115
5. ことわざの言語的特徴	119
5.1 定型表現	120
5.2 古語法	132
6. 資料集 1〈海外のサイトにある日本語のことわざ〉	147
7. 資料集 2〈 <i>Cultural Literacy: What Every American Needs to Know</i> 〉	152

1. ことわざの定義

ことわざと言えば、人はどのようなものを頭に思い描くのだろうか。きわめて的を射て、なおかつそれ自体が、ことわざらしい表現がある。“The wisdom of many; the wit of one.”である。そう言ったのは、19世紀のイギリスの政治家 Lord John Russel であるそうだ。月並みではあるが、広辞苑の定義ではどうだろう。「古くから人々に言いならわされたことば。教訓・諷刺などの意を寓した短句や秀句。『蒔かぬ種ははえぬ』の類」とある。*Oxford English Dictionary* ではどうだろう。proverb の項には、“A short pithy saying in common and recognized use; a concise sentence, often metaphorical or alliterative in form, which is held to express some truth ascertained by experience or observation and familiar to all; an adage, a wise saw.”とある。もちろん、各人なりにことわざの定義はあると思うが、この辞書の定義を読みとるために、この中で用いられている名詞や形容詞に注目してみよう。ことわざは名詞では、saying や sentence で、経験 (experience) や観察 (observation) に裏づけされた事実や叡智 (truth) を含んでいるものである。adage や saw は proverb の言い換え表現である。また形容詞では、ことわざは形式的には short で concise、象徴的で頭韻形式となっていて、よく (common) 共通認識を持って (recognized) 使用され、万人に familiar な存在である。

では、辞書的な定義はどうであったとしても、今日、ことわざとはどのようなとらえられているのか興味深いところである。そこで、現代の知識人にことわざとは何かと尋ねた学者がいた。Mieder (1999) は「あなたならことわざをどう定義するか」と問いかけ、教養や学識のある人々から55件の回答を披露し、現代的な意味合いでことわざを定義しようと試みた。ここではその回答例と分析を紹介してみよう。

1. A proverb consists of a short sentence which contains a general piece of wisdom.
2. A proverb contains wisdom which has been handed down from one generation to the next.
3. A proverb describes situations which happened before and which are repeated again and again.
4. A proverb expresses folk wisdom in formulaic, short and metaphorical language.
5. A proverb has been passed down through many generations. It sums up, in one short phrase, a general principle or common situation, and when you say it, everyone knows exactly what you mean. It is often graphic, symbolic or rhyming, so that it is easily remembered.
6. A proverb is a common expression whose origin is not known or has been forgotten. It expresses wisdom concerning life.
7. A proverb is a common, repeated and generally known phrase which expresses a general idea taken to be true. It usually draws upon everyday occurrences or events in nature which are easily understood.
8. A proverb is a commonly-known, easily understandable example of descriptive, colorful, “folksy” wisdom, which, independent of the era, carries a lesson to and conveys a philosophy of life for the common man.
9. A proverb is a commonly-known, often-quoted, concise saying which expresses a generalization concerning some aspect of everyday existence.
10. A proverb is a commonly used or known phrase, expressing knowledge, a conclusion or an attitude about aspects of life that are universally familiar to mankind.
11. A proverb is a complete sentence which usually contains a moral or didactic “message.”
12. A proverb is a condensed form of age-old folk sayings and biblical teachings. The proverb attempts to teach us, via the trials and tribulations of others who were not as fortunate as we. Proverbs can be positive or negative in nature; unfortunately, far too many of them are anti-women in their conclusions.
13. A proverb is a condensed version of basic opinions, prejudices and beliefs

- common to a group of people. These are usually in the form of very short, easy-to-remember sentences or phrases.
14. A proverb is a fixed-phrase, metaphorical statement.
 15. A proverb is a fixed phrase piece of folklore consisting of a comparison or analogy, applying one set of circumstances to a different but similar situation.
 16. A proverb is a formulaic expression of a certain truth which is applicable only in a special situation. Used generally a proverb is only half a truth.
 17. A proverb is a linguistic attempt to express a general truth or wisdom in a few words.
 18. A proverb is a metaphorical statement that illustrates a lesson of behavior.
 19. A proverb is a one-sentence statement which encapsulates an element of folk wisdom; a specific reference which applies to many generalized situations or meanings.
 20. A proverb is a phrase or sentence, accepted and integrated into common verbal usage of the general population, although often regional in character, which is most likely generated by astute, humanistic, albeit didactic, assessment of the human experience, offering tidbits of wisdom applicable to these paradigms of existential encounter.
 21. A proverb is a pictorial phrase in which a message is given, many times a picture of an oft done action.
 22. A proverb is a pithy statement or comment usually involving advice or a moral.
 23. A proverb is a saying or generalization often accepted as truth; it contains words of wisdom.
 24. A proverb is a saying that is known to the public; sometimes a moral or a threat.
 25. A proverb is a saying with which people often identify because it is universal and meaningful in some way or other.
 26. A proverb is a sentence or phrase which expresses the generally accepted thought or belief of a group and which has, through use, become of a group and which has, through use, become standardized in form.
 27. A proverb is a sentence that has been developed orally and is still used by the people of a region. It has usually come about from experience and it is a

- statement that teaches the learning within an experience.
28. A proverb is a short and general statement which is handed down by tradition and which changes its meaning according to the speaker and the situation.
 29. A proverb is a short and poetic statement used by the folk to express rules or wisdom concerning life.
 30. A proverb is a short, concise, colloquial saying, easily memorized, and containing traditional beliefs taken to be true.
 31. A proverb is a short, concise phrase which states a moral principle, bit of folk wisdom or similar rule by which one should live.
 32. A proverb is a short condensation of a piece of folk wisdom, formed in such a way that it will be memorable. Its main goal is thus to teach, whether it be a semi-scientific fact or a viewpoint.
 33. A proverb is a short expression known by many people. It usually contains a commonly held view of life.
 34. A proverb is a short phrase. It is used to convey a traditional bit of folk wisdom.
 35. A proverb is a short saying which teaches a point or establishes a cultural norm based on the tradition of the people who use it. It is generally to be understood analogically – at least I have never heard of a proverb fundamentalist.
 36. A proverb is a short sentence or phrase which capsulizes a thought about human nature, values or ideals, and is generally thought to be for instructive/exemplary purposes.
 37. A proverb is a short sentence or saying which expresses a rather simple didactic concept, and which usually implies a right as opposed to a wrong action. Proverbs are brief, often not direct (metaphoric), and a great majority of the community will be familiar with the proverb and its meaning.
 38. A proverb is a short, traditional statement which teaches or gives advice on a subject. Comparisons are often used to illustrate the point.
 39. A proverb is a small saying that describes wisdom in a way that either teaches or makes fun of it.
 40. A proverb is a statement often articulated in parallel or allegorical terms with the intent of expressing a general truth.

41. A proverb is a traditional, fixed-phrase saying, usually one sentence that expresses an opinion, often considered wisdom, on a subject or recommends a course of action.
42. A proverb is a traditional saying or sentence which summarizes an attitude towards something or describes a certain situation. It is an often used saying through which one learns. A “picture” or “image” accompanies, or is within the expression, which gives light to the lesson to be learned. This lesson is often referred to as a moral.
43. A proverb is a traditional wisdom, advice or statement in a fixed phrase. It is short and precise, consists of at least two parts, and contains actor and verb.
44. A proverb is a well known saying which belongs to folk poetry and which is used by everyone.
45. A proverb is a well known saying without a known author, passed on from generation to generation, which gives advice, admonitions or a moral lesson – usually a few words to not more than one sentence in length and stated in a manner that is easily remembered i.e. rhyme, workable language, alliteration, analogy, etc. It is related to man as a whole and often begins with who.
46. A proverb is a witticism which combines clarity and precision of thought with brevity and profundity of word usage. The statement generally applies to a situation which is commonly understood and appreciated by all peoples of a given culture.
47. A proverb is an expression in colloquial or biblical terms which illustrates a moralistic point.
48. A proverb is an often repeated and metaphorical expression.
49. A proverb is generally used to provide “wisdom” in a concise way. It spares the speaker of the proverb the chore of being philosophically original.
50. A proverb is the wisdom of many, the wit of one. This is known as defining a proverb with a proverb. It doesn’t hold up too well as a definition, but it sticks in my mind.
51. Certain principles and conditions of everyday life are expressed in proverbs, which in turn help people to understand the world and to learn from experience.
52. In a few words proverbs explain human problems and behavior.

53. Proverbs are general statements of truth which can apply to certain instances in a commentary fashion, and which can act as wise words for future actions.
54. Proverbs are golden words of folk wisdom that have been treasured from generation to generation.
55. Proverbs are short and aphoristic expressions of wisdom which reflect basic human situations and concerns.

Meider はこれらの回答結果の中に含まれる名詞や形容詞の語彙を分析した。まず、ことわざの定義の根幹となる名詞は、wisdom (20件); phrase (14件); sentence, saying (13件); statement (12件); folk (10件); situation (9件); expression (7件); life (6件); truth, moral, people (5件); generation, experience, advice, lesson, word (4件); principle, analogy, belief, behavior, meaning, action (3件); language, generalization, attitude, message, opinion, picture, comment, thought, comparison, tradition, rule, viewpoint (2件); origin, idea, occurrence, philosophy, knowledge, conclusion, prejudice, folklore, paradigm, threat, form, norm, nature, value, ideal, image, poetry, author, admonition, rhyme, alliteration, witticism, brevity, profundity, clarity, precision, culture, condition, concern (1件) などであり、これらの名詞を集約すると、ことわざとは、“a phrase, saying, sentence, statement or expression of the folk which contains above all wisdom, truth, morals, experience, lessons and advice concerning life and which has been handed down from generation to generation.” であるという。

一方、ことわざを定義する形容詞や副詞などの修飾語を分析してみると short (18件); general (14件); known (10件); common, teach, traditional (6件); metaphorical (5件); concise, fixed (4件); repeated, remembered, everyday, didactic (3件); handed down, formulaic, true, understandable, often quoted, universal, moralistic, colloquial, memoriz

able, learned, familiar, biblical, human (2件); sum up, graphic, symbolic, rhyming, colorful, descriptive, old, linguistic, regional, pictorial, pithy, standardized, accepted, oral, poetic, parallel, precise, aphoristic, cultural, instructive, exemplary, small, allegorical (1件)を拾い上げることができ、ことわざとは“a short, generally known sentence that expresses common, traditional and didactic views in a metaphorical and fixed form and which is easily remembered and repeated.”と言えるというのだ。

読者のみなさんは「あなたならことわざをどう定義するか」と聞かれたらどう回答するであろうか。この中の名詞や形容詞・副詞から組み合わせを作られたり、独自の語彙を思い巡らせてみてほしい。または、“The wisdom of many; the wit of one.”にあるように、ことわざをことわざとして表わすことも創造的な作業であることは間違いない。

2. ことわざの分類

2.1 ことわざの Topic の分類

ことわざが人生や日常生活に関わる万人の英知を、機知に富んだコンパクトな言語形式に収めてあるとして、それでは、人生や日常生活のどのような分野に関して、そのことわざは存在するのであるか。言い換えれば、ことわざには、人生や日常生活をどのように切り分けて、その英知が語られているのであろうか。WorldofQuotes.comでは、ことわざ、名言、引用などをおよそ1400ものカテゴリーに分類している。

例えば、人生 (Life) の項には、**Life can only be understood backwards; but it must be lived forwards.**「人生は振り返って初めて分かるものだが、前向きに生きていかねばならない」という奥深い洞察もあれば、**I hope life isn't a big joke, because I don't get it.**「人生がばかげたジョークなら困る。意味が分からないからだ」というユーモアま

でそろっている。また、**Life is what happens to us while we are making other plans.**「人生とは何か計画を立てているときに、それとはかけ離れたところで起こるものだ」と皮肉的なコメントもある。思い返せば、元 The Beatles のメンバー John Lennon は銃で殺される直前に、音楽シーンに復帰したばかりであった。まさにその時期に、自らの子どもに向けた曲の中で、この表現をもじって歌っている。**Life is what happens to you while you are busy making other plans.** とわが子に諭しているのであるが、その本人が、音楽界復帰の意気込みとは裏腹に、射殺されてしまうという何とも皮肉なできごとであった。

それでは、膨大な数ではあるが、1400のカテゴリーをアルファベット順にあげておく。興味・関心を持たれた方は是非このサイトにアクセスして、気に入った言葉をさがしていただきたい。

Abhorrence, Ability, Abortion, Absence, Abstinence, Absurdity, Abundance, Abuse, Acceptance, Accident, Accidents, Accomplishments, Accuracy, Accusations, Achievement, Acting, Action, Actions, Adaptability, Addiction, Admiration, Adultery, Adventure, Adversity, Advertising, Advice, Advice / Experience / Wisdom, Aesop Fables, Affection, Affirmation, Affliction, Age, Aggression, Agitation, Agreement, Agriculture, Albatrosses, Alchemy, All About Love, All About the Self, Alliance, Ambiguity, Ambition, America, Amusement, Ancestry, Anger, Animals, Answers, Anticipation, Ants, Apathy, Apology, Apparel, Apparitions, Appearance, Appetite, Applause, Apple Blossoms, Apples, Appreciation, April, Architecture, Argument, Arithmetic, Arrogance, Art, Art and Artists, Artists, Assertiveness, Asters, Astronomy, Athens, Athletes, Attitude, Authority, Authorship, Autumn, Awareness, Babies, Baby, Babyhood, Bachelors, Bad pick up lines, Balance, Ballads, Balloons, Banks, Bargain, Baseball, Basketball, Beach Birds, Beauty, Beds, Bees, Beetles, Beggary, Beginnings, Behavior, Being, Belgium, Beliefs, Bells, Benefits, Bereavement, Betrayal, Bible, Bigotry, Birds, Birds of Paradise, Birth, Blackbirds, Blame, Blessings, Blind, Blindness, Blood, Bluebirds, Blushes, Boating, Bobolinks, Body, Boldness, Books, Books (First Lines), Books and Reading, Boredom,

第Ⅱ部 英語のことわざ・名言

Borrowing, Bosses, Boston, Boys, Bragging, Bravery, Breeding, Brevity, Bribery, Brooks, Brotherhood, Budgets, Bugs, Building, Burden, Bureaucracy, Business, Busyness, Butchering, Buttercups, Butterflies, Buying, Calamity, Calculations, Calumny, Canaries, Candor, Capitalism, Cards, Care, Caring, Catchphrases, Cats, Cause, Caution, Celibacy, Censorship, Censure, Ceremony, Certainty, Change, Chaos, Character, Charity, Charm, Chastity, Cheating, Cheerfulness, Chess, Childhood, Children, Children / Youth, Choice, Choices, Christ, Christianity, Christmas, Churches, Circumstance, Circumstances, Cities, Citizenship, Civilization, Class, Cleanliness, Cleverness, Cliches and One-Liners, Clothes, Clouds, Clowns, Cocks, Columbus, Comedians, Comedy, Comfort, Committee, Commitment, Common Sense, Communication, Communism, Companionship, Comparisons, Compassion, Competency, Competition, Complaint, Compliment, Compliments, Compromise, Computer / Technology / Science, Computers, Conceit, Confession, Confidence, Conformity, Confusion, Congress, Conscience, Consequences, Conservation, Consideration, Consistency, Constitution, Contemplation, Content, Contention, Contentment, Contradiction, Contrast, Control, Conversation, Cookery, Cooking, Coquetry, Corruption, Countries, Country, Courage, Court, Courtesy, Courtiers, Covetousness, Cowardice, Cowards, Cows, Cowslips, Creativity, Credit, Credulity, Crime, Crisis, Criticism, Crows, Cruelty, Cuckoos, Culture, Cunning, Cure, Curiosity, Custom, Cynic, Cynicism, Daffodils, Daisies, Dance, Dancing, Danger, Darkness, Dating, Day, Death, Death / Immortality, Debt, Deceit, December, Decency, Deception, Decision, Decisions, Declaration of Independence, Dedication, Deeds, Deep Thoughts, Defeat, Defense, Delight, Delusion, Democracy, Denial, Denmark, Dependence, Depression, Desire, Despair, Desperation, Destiny, Detail, Devil, Dew, Dictatorship, Difference, Difficulties, Difficulty, Dignity, Diligence, Diplomacy, Disagreements, Disappointments, Disasters, Discipline, Discontent, Discouragement, Discretion, Disease, Disgrace, Disguise, Dishonesty, Dissension, Distrust, Diversity, Divinity, Doctrine, Dogs, Doubt, Doves, Draft, Dream, Dreams, Dress, Drinking, Drugs, Duty, Eagles, Earth, Easter, Eating, Eccentricity, Echo, Economy, Ecstasy, Education, Effect, Efficiency, Effort, Egotism, Eloquence, Embarrassments`, Emotion`, Emotions, Empathy, Empowerment, Encouragement, End, Endurance, Enemies, Enemy,

Energy, Engineering, England, English Channel, Enjoyment, Enthusiasm, Environment, Envy, Epigrams, Epitaphs, Equality, Error, Errors, Eternity, Ethics, Europe, Evening, Events, Evil, Evolution, Exaggeration, Example, Exasperation, Excellence, Excess, Excuses, Existence, Expectation, Experience, Exploitation, Exploration, Extravagance, Extremes, Exwomen, Eye, Eyes, Faces, Fact, Facts, Failure, Faith, Faithfulness, Falcons, Fallibility, Fame, Familiarity, Family, Famine, Famous Last Words, Fanaticism, Fanatics, Fancy, Fantasy, Farewells, Fashion, Fate, Fatigue, Fault, Faults, Favorite Music Quotes, Favors, Fear, February, Feeling, Feelings, Feet, Festivities, Fiction, Fidelity, Fight, Finance, Finance and Economics, Fire, Fireflies, Firmness, Fish, Fishermen, Fishing, Flags, Flattery, Flaws, Fleas, Flexibility, Flies, Flirtation, Flowers, Flyfishing, Focus, Followers, Folly, Food, Fools, Footsteps, Foppery, Forbidden, Force, Foreign Policy, Forgetfulness, Forgiveness, Formula, Fortune, France, Fraud, Freedom, Freedom of the Press, Friends, Friends / Friendship, Friendship, Frigidity, Frogs, Frustration, Future, Gain, Gallantry, Gambling, Games, Garden, Geese, Gender, General Sayings, Generations, Generosity, Genetics, Genius, Genocide, Gentians, Gentleman, Geography, Geometry, Germany, Giants, Gifts, Girls, Giving, Glamour, Glory, Glowworms, Glutton, Gluttony, Gnats, Gnomes, Goals, God, Gods, Gold, Golf, Goodness, Gossip, Goths, Government, Grace, Graffiti, Grammar, Grasshoppers, Gratitude, Grave, Gravity, Greatness, Greece, Greed, Grief, Growth, Grudges, Guest, Guests, Guidance, Guilt, Habit, Habits, Hair, Happiness, Hardware, Harm, Harmony, Harvest, Haste, Hate, Hatred, Hatters, Hawks, Health, Hearing, Heart, Heartbreak, Heart-quotes, Heaven, Hell, Help, Hens, Heredity, Heresy, Heroes, Heroism, Hesitation, Hindsight, Hippies, Hiring, History, Holidays, Holiness, Holly, Hollywood, Home, Honesty, Honeysuckles, Honor, Hope, Horror, Horses, Hospitality, Hospitals, Hounds, Housewife, Housework, Humanity, Humility, Hummingbirds, Humor, Hunger, Husbands, Hygiene, Hypocrisy, Icicles, Ideas, Identity, Idiots, Idleness, Ignorance, Illness, Illusion, Imagination, Imitation, Immortality, Impatience, Importance, Impossibility, Inaction, Indecision, Independence, Indifference, Indiscretion, Individuality, Infatuation, Infidelity, Infinite, Inflation, Influence, Ingratitude, Inheritance, Injury, Innocence, Innovation, Inns, Insanity, Insects, Insecurity, Inspirational, Inspiring, Instinct, Insult, Insults,

Integrity, Intellect, Intelligence, Intemperance, Intentions, Intimacy, Intolerance, Intuition, Invention, Investigation, Ireland, Irony, Islands, Isolation, Italy, Ivy, Jackdaws, Jaded, Jargon, Jasmines, Jays, Jazz, Jealousy, Jeer, Jelly beans, Jeopardy, Jest, Jestings, Jewels, Job, Jokes, Journalism, Journey, Joy, Judgement, Judges, Judgment, Judo, July, June, Jungle, Jury, Justice, Justification, Kaleidoscope, Karate, Karma, Katydids, Key, Killing, Kindness, Kings, Kinship, Kisses, Kitchen, Kites, Knave, Knavery, Knight, Knowledge, Koran, Labor, Ladies, Land, Language, Lapwings, Larks, Last Words, Laughter, Law, Laws of Life and Nature, Lawyers, Laziness, Leaders, Leadership, Learning, Legislators, Leisure, Lemons, Letters, Liberal, Liberality, Liberty, Libraries, Lies, Life, Light, Lilies, Limitations, Linden, Linguists, Linnets, Linux, Liquor, Listening, Literary, Literature, Livery, Living, Logic, London, Loneliness, Loneliness and Solitude, Longevity, Lonliness (*sic*), Loquacity, Losing, Loss, Love, Love Lies Bleeding, Love lost, Love of Country, Lovers, Loyalty, Luck, Lust, Luxury, Lying, Machine, Magic, Majority, Malice, Mammals, Mammon, Man, Manipulation, Mankind, Manners, March, Marriage, Martlets, Martyr, Martyrs, Materialism, Mathematicians, Mathematics, Matrimony, Maturity, Maxim, Maxims, May, Meaning of Life, Media and Entertainment, Medicine, Mediocrity, Meditation, Meeting, Melancholy, Memory, Men, Men and Women, Mentors, Mercy, Merit, Merriment, Metaphors, Metaphysics, Midges, Midnight, Military, Mimes, Mind, Minority, Miracles, Mirth, Miscellaneous, Miser, Misers, Misery, Misfortune, Mission, Mistakes, Mob, Mockingbirds, Moderation, Modesty, Money, Montana, Months, Monument, Monuments, Moon, Morality, Morals, Mortality, Mosquitoes, Mother, Motherhood, Mothers, Moths, Motivation, Motive, Motives, Mottoes, Mountains, Movies, Mulberry, Murder, Music, Music: Lyrics, Mystery, Mystics, Myth, Myths, Nagging, Name, Names, Naps, Nation, Nationalism, Nations, Nature, Navigation, Navy, Necessity, Needs, Negativity, Neglect, Negotiation, Neighbors, Nerves, Nervousness, Neurosis, Neutrality, New York, News, Newspapers, Niagara, Night, Nightingales, Nobility, Nonsense, Normality, Nostalgia, Nothing, Nothingness, Novelty, Now, Numbers, Oak, Obedience, Objectives, Obligation, Obscurity, Observation, Obsession, Obstacles, Obstnacy, Obvious, Occupation, Occupations, Ocean, Oceans, October, Old Sayings, Oneness, Opera, Opinion, Opinions, Opponents, Opportunity,

Opposites, Opposition, Oppression, Optimism, Options, Oracle, Oratory, Order, Originality, Ostentation, Ostriches (Estridges), Outcasts, Owls, Ownership, Oysters, Pain, Painting, Pansies, Paradise, Paradoxes, Parenting, Parents, Paris, Participation, Parting, Partridges, Party, Passion, Past, Patience, Patriotism, Peace, Peacocks, Pearls, Pelicans, Pen, Perception, Perceptions, Perfection, Persecution, Perseverance, Personality, Perspective, Persuasion, Pessimism, Pheasants, Philanthropy, Philosophy, Photography, Phrenology, Physicians, Physics, Piety, Pigeons, Pity, Plagiarism, Planning, Plants, Please title this page. (envy.html), Please title this page. (mercy.html), Pleasure, Poetry, Poets, Poison, Politics, Politics / Government, Pollution, Poppies, Popular Culture: Bumper Stickers, Popularity, Population, Possession, Possessions, Possibilities, Post, Posterity, Poverty, Power, Practice, Praise, Prayer, Preaching, Prejudice, Present, Presidency, President, Pressure, Pretension, Pride, Principles, Printing, Prison, Privacy, Procrastination, Production, Profanity, Profession, Progress, Promises, Propaganda, Property, Prophecy (Prophesy), Prosperity, Proverbial Phrases, Proverbs, Proverbs (General), Proverbs: Latin, Providence, Prudence, Psychological Subjects, Public, Public Speaking, Public Trust, Publishing, Punctuality, Punishment, Purity, Purpose, Pursuit, Quackery, Quail, Quakers, Quality, Quantity, Quarrel, Quarrels, Queen, Quest, Question, Questions, Quick, Quiet, Quitting, Quotation, Quotes, Race, Racism, Radical, Rain, Rainbows, Rank, Rapport, Ravens, Reading, Reality, Reason, Rebellion, Rebirth, Recreation, Reflection, Reform, Regret, Reincarnation, Rejection, Relationships, Relativity, Relaxation, Religion, Religion / Beliefs, Remedies, Remorse, Repentance, Repetition, Repression, Reputation, Research, Resentment, Resignation, Resolution, Respect, Responsibility, Rest, Restraint, Result, Results, Retirement, Revenge, Reverie, Revolution, Reward, Rhetoric, Rhine River, Ridicule, Right, Rights, Riot, Risk, Ritual, Rivalry, Rivers, Robins, Romance, Rome, Rooks, Roses, Royalty, Ruin, Rumor, Rumors, Russia, Sabbath, Sacrifice, Sadness, Safety, Salvation, Sandpipers, Sanity, Santa Claus, Sarcasm, Satire, Satisfaction, Scandal, Science, Science and Technology, Science and Technology: Physics, Scientists, Scotland, Scripture, Sculpture, Sea, Sea Birds, Seasons, Secrecy, Secrets, Security, Selfawareness, Self-confidence, Self-control, Self-examination, Self-improvement, Selfishness, Self-knowledge, Self-respect, Self-

第Ⅱ部 英語のことわざ・名言

sacrifice, Sense, Senses, Sensibility, Sensitivity, Sensuality, Sentiment, Serenity, Service, Shadows, Shakespeare, Shame, Shamrocks, Sheep, Ships, Shipwreck, Shoemaking, Shyness, Sickness, Sight, Silence, Simplicity, Sin, Sincerity, Singing, Skepticism, Sky, Slackers, Slander, Slavery, Sleep, Smile, Smiles, Snow, Society, Solaris, Soldiers, Solitude, Songs, Sorrow, Soul, Sound, Spain, Sparrows, Speech, Spelling, Spiders, Spirit, Spirits, Spirituality, Sports, Sports: Baseball, Sports: Basketball, Sports: Boxing, Sports: Football, Sports: Golf, Sports: Hockey, Sports: Soccer, Spring, St Thomas Aquinas, Stars, State, Statesmanship, Statistics, Stoners, Storms, Story Telling, Strength, Stress, Struggle, Students, Study, Stupidity, Style, Success, Suffering, Suicide, Summer, Sun, Sun Dial Mottoes, Sunset, Superstition, Surrender, Survival, Suspicion, Swallows, Swanee River, Swans, Swearing, Sweet Basil, Sweetness, Swine, Sympathy, Tact, Tailors, Talent, Talk, Tardiness, Taste, Tax, Taxes, Tea, Teachers, Teaching, Teamwork, Tears, Television, Temper, Temperance, Temperament, Temptation, Temptations, Tenderness, Thames River, Thankfulness, Thanksgiving Day, The sexes, Theater, Theft, Theology, Theories, Theory, Thieving, Thinking, Thought, Thoughts, Thrushes, Tiber River, Tides, Time, Timidity, Titles, Toasts, Tolerance, Tomorrow, Tongue, Tools, Tradition, Tragedy, Training, Tranquility, Travel, Traveling, Treachery, Treason, Trees, Trials, Trifles, Trouble, Trout, Trust, Truth, Trying, Turkey, Turkeys, Twilight, Tycoon, Tyranny, Ugliness, Umbrellas, Umpire, Unbelief, Uncertainty, Unconscious, Understanding, Undertakers, Unemployment, Unhappiness, Uniqueness, Unity, Universe, University, Unix, Unkindness, Unworthy, US Presidents, Vacation, Validity, Valor, Value, Vanity, Variety, Vegetarianism, Vengeance, Venice, Vice, Vices, Victims, Victory, Vietnam, Vigilance, Villainy, Violence, Violets, Virginity, Virtue, Vision, Visions, Visualization, Vocabulary, Vocation, Voice, Volunteerism, Vote, Voting, Vow, Vulgarity, Vulnerability, Wage, Wages, Wail, Waiting, Waking, Walking, Want, War, Washington, George, Waste, Water, Weakness, Wealth, Weapons, Weather, Weddings, Weeping, Welfare, Whim, Whippoorwills, Whisper, Wickedness, Widows, Wife, Will, Wind, Windows, Wine and Spirits, Winning, Winter, Wisdom, Wishes, Wishing, Wit, Wives, Women, Wonder, Wonders, Wooing, Word, Words, Work, World, World Peace, Worry, Worship, Worth, Wounds, Wrath, Wrens, Writer,

Writers, Wrong, Wrongs, Xerox, Yankee, Yawns, Yearning, Years, Yesterday, Yew, Yield, Youth, Yuppies, Zeal, Zen, Zenith, Zephyrs, Zombies, Zone, Zoology,

2. 2 ことわざの教訓としての分類

日本のインターネットサイトにも、大作が存在する。『英語のことわざ教訓事典』のサイトの作者、安藤邦男氏はことわざを教訓として分類しているのである。例えば、「ものの見方」の章では、「対比の論理」の見出しのもとに、「ものごとには両面があることを教える」という教訓カテゴリーがあり、さらに教訓の実例を挙げているのだ。

教訓 1 〈ものには矛盾する二面がある〉では、**There is no rose without a thorn.** 「バラにトゲあり」、**Every medal has two sides.** 「メダルにはみな裏と表がある」、**Look on both sides of the shield.** 「盾の両面を見よ」など、教訓 2 〈ものには対立する相手がある〉では、**Every flow must have its ebb.** 「満つれば欠く」、**After a storm comes a calm.** 「雨降って地固まる」、**One man sows and another reaps.** 「一人が種を蒔いて、もう一人が刈り取る」など、そして、教訓 3 〈ものは正反対のものに変化する〉では、**No news is good news.** 「便りのないのはよい便り」、**From the sublime to the ridiculous is but (or only) a step.** [Napoleon Bonaparte] 「崇高から滑稽まではほんの紙一重」、**The greatest hate springs from the greatest love.** 《最大の憎悪は最大の愛情から生まれる》「可愛さ余って憎さ百倍」などと細分化している。全体では個々のことわざをその教訓数、264種のもとに解説しているのである。ある時には勇気を称えたり、ある時は慎重を促したりと、人生の教訓はそれ自体が、論理矛盾を起こすこともあって悩ましいこともあるが、教訓を必要とする時にはこれは大変意義深いサイトで、なによりも人生や生き方に関する洞察を与えてくれるのである。それでは、「教訓のカテゴリー

別分類のページ」において、どのような教訓があるか紹介してみよう。

「ものごとには両面があることを教える」「身近にあるもののメリット・デメリットについて教える」「遠くにあるもののメリット・デメリットについて教える」「美の価値について教える」「美の一時性・危険性について教える」「美と好みの主観性について教える」「外見と中身の不一致について教える」「外見と中身とどちらが大切かを教える」「小さなもの・少ないもののメリット・デメリットについて教える」「大きなもの・多いもののメリット・デメリットについて教える」「全体より部分が重要であると教える」「部分より全体が重要であると教える」「全体と部分の関係について教える」「世の中の変化について教える」「人間の運命について教える」「人生の処し方について教える」「樂觀をすすめる・いましめる」「極端をいましめる」「中庸をすすめる」「目的と方法について教える」「一時に一事をすすめる」「ものごとの始めと終わりの大切さを教える」「意欲や願望のメリット・デメリットについて教える」「勇敢さ・慎重さ・継続と忍耐をすすめる」「努力と勤勉の必要について教える」「時間・機会について教える」「安全確保の方法・危険からの脱出策を教える」「交友と団結・友人と友情について教える」「指導者について教える」「人の上に立つこと・脇役であることをすすめる」「金の性質について教える」「金をもつことの利益・不利益について教える」「生活の糧の大切さを教える」「節約をすすめ借財をいましめる」「悪人と不正について教える」「悪を防ぐ奇策について教える」「無知の利点について教える」「知識と経験の必要性を教える」「知恵は経験から得られることを教える」「若者の未経験について教える」「学習と年齢の関係について教える」「経験と学問のいずれが大切かを教える」「知恵と学問について教える」「言葉や世論のもつ力について教える」「言葉の語る真実と虚偽について教える」「言葉の使い方について教える」「世間の噂について教える」「忠告や助言について教える」「沈黙の言語について教える」「言葉が無力であることを教える」「言葉と行動の関係について教える」「原因と結果について教える」「因果応報について教える」「長所と才能について教える」「短所と過失について教える」「先天的性質の不変性について教える」「後天的しつけや教育の重要性について教える」「正直について教える」「自助や自律をすすめる」「愛と結婚について教える」「悩みや罪の意識について教える」「憶病について教える」

2. 3 その他のことわざの分類

ことわざは論理と感性の言語表現であるとも言われる。『言語』のことわざ特集で北村（1996）はことわざを右脳に典型的な思考様式（Rモード）と左脳のそれ（Lモード）に分けて論を展開しているが、その中でベティエドワーズの対立概念を紹介している。〈Lモード：Rモード〉として、〈言語的：非言語的〉〈分析的：総合的〉〈象徴的：具体的〉〈抽象的：類推的〉〈時間的：非時間的〉〈理性的：非理性的〉〈計数的：空間的〉〈論理的：直観的〉〈直線的：全体論的〉を眺めていただくと、右脳の、左脳的にことわざが分類される可能性が理解できるであろう。

また、同じく北村（1996）はことわざ、名言、格言を、8つの座標軸を持つ円チャートで分析を試みている。口承性、庶民性、比喩、ユーモア感覚、現代性、出典・作者の意識、抽象性、倫理道徳性である。ことわざとは、口承性、庶民性、比喩、ユーモア感覚の要素が強く、名言は出典・作者の意識、抽象性、倫理・道徳性が表れ、格言は出典・作者の意識、抽象性、倫理・道徳性が色濃く出ているというのである。

また、KWIC コンコーダンスによる語彙を分析してみた結果の上位100語をアルファベット順にとりあげてみよう。今回、ことわざをおよそ2500種、とりあげることができたが、その中から機能語、内容語を分析してみると、ことわざに用いられるキーワードでその切り分け方がわかるであろう。これと関連して、ことわざの言語的な分類や特徴については、「5. ことわざの言語的特徴」でとりあげることにする。

a, all, always, an, and, another, are, as, at, away, bad, be, before, best, better, but, by, can, cannot, catch, come, day, devil, do, don't, door, even, every, everything, first, for, from, get, give, go, god, good, great, have, he, his, horse, if, ill, in, is, it, its, it's, know, let, life, like, little, live, love, make, man, many, may, me, men, money, more, must, my, never, no, not, nothing,

of, often, old, on, once, one, only, or, other, out, over, own, people, person, said, so, someone, something, soon, take, than, that, the, their, there, they, thief, thing (複数形 things も), those, time, to, too, two, up, used, was, water, way, we, well, what, when, while, who, will, wise, with, without, worth, would, you, young, your

3. ことわざの解釈

3.1 対照的なことわざ

しかしながら、このようなトピック・教訓・語彙などから言語化されていることわざも対照的な解釈をしていることが分かる。一方からみた事象や現象が、また別の対照的な視点から語られていることがよくある。特に、先ほど教訓の節で述べたことだが、人生やものごとの状況をどう捉えるかにおいて、背反的、対照的、補完的となりうることわざが存在していることが分かる。入学試験や就職試験、クイズ番組などにも、そういう対立することわざが問われることがよくある。以下は、推理ドラマ『古畑任三郎』の冒頭のシーンである。刑事役に扮する田村正和が独特の口調で語りかける。

えー、イキナリですが、クイズをひとつ。「人を見たら泥棒と思え」の反対の意味に当たることわざは何でしょうか。「渡る世間に鬼はなし」ですかね。それでは、次のことわざの逆の意味に当たることわざは何でしょうか。「どんぐりのせいくらべ」答えは、12分3秒後に。

さて、番組が進行し、12分3秒後にこの答えが告げられる。「掃き溜めに鶴」である。このように、ことわざの解釈には、一般常識として、あるいは現代人の教養の一端として、ある現象の切り分け方が含まれている

ことが分かる。海外のサイト Brian Kendig や General Overview of Proverbs を調べてまとめてみると、次のようなことわざのペアが代表的なものとして、対照的なペアをなしていることがわかる。

1. **A bird in the hand is worth two in the bush!**
⇔ **A man's reach should exceed his grasp!**
2. **A miss is as good as a mile!**
⇔ **Half a loaf is better than none!**
3. **Absence makes the heart grow fonder.**
⇔ **Out of sight out of mind.**
4. **Birds of a feather flock together!**
⇔ **Opposites attract!**
5. **Clothes make the man!**
⇔ **Never judge a book by its cover!**
6. **Don't cross your bridges before you come to them.**
⇔ **Forewarned is forearmed!**
7. **Doubt is the beginning of wisdom!**
⇔ **Faith will move mountains!**
8. **Good things come in small packages!**
⇔ **The bigger the better!**
9. **Great starts make great finishes!**
⇔ **It ain't over 'till it's over!**
10. **He who hesitates is lost!**
⇔ **Look before you leap!**
11. **If at first you don't succeed, try, try again.**
⇔ **Don't beat a dead horse.**
12. **Ignorance is bliss.**
⇔ **An unexamined life is not worth living!**
13. **Practice makes perfect!**
⇔ **All work and no play makes Jack a dull boy!**
14. **Silence is golden.**
⇔ **The squeaky wheel gets the grease.**

15. **The pen is mightier than the sword.**

⇨ **Actions speak louder than words!**

16. **You're never too old to learn.**

⇨ **You can't teach an old dog new tricks.**

3. 2 ことわざに対する両義・あいまい・誤用

また、一つの表現であっても、それを複数の解釈でとらえることがある。言うまでもなく有名な例であるが、

A rolling stone gathers no moss.

「ころころ転がっているは、だめだ」

「ころころ転がっていたら、錆びつかない」

のように、‘moss’を良い意味や悪い意味の両者に解釈することによって、対照的な用法となっていく。例えば、フリーターとして職を転々とする辛抱が足りない子どもに苦言する場合の「苔」＝「伝統・業績」、または、このスピードの時代に変わり映えのしない職場を見る「苔」＝「錆」と、認識しているのである。

日本語でも、「かわいい子には旅をさせよ」では、「旅」＝「試練」（子供は、甘やかして育てるより、手許からはなしてつらい経験をさせ、世の中の辛苦をなめさせた方がよい）（広辞苑）であったり、現代的誤用としては「旅」＝「卒業旅行」であったりする。また、「情けは人のためならず」では、「他人のためではなく、自分のためであったり」の原義のほかに、「他人の利益にならないから、その人を甘やかしてはダメだ」と解釈されたりするのである。しかしながら、どのケースも、「苔」や「旅」の意味をどうとらえるかということであるが、実は、これらのことわざを引用して、自分の気持ちを訴えかける際に、その話者の気持ちは表れているのである。

4. ことわざの実用とパロディ

このように、日常生活において、ことわざはその原義や正用法に基づき常に適切に用いられているわけではない。時代や地域が異なると使われ方も異なるのである。しかしながら、原義や正用法が間違っている、ある状況にピッタリと当てはまれば、そのことわざは生き生きと使われることになる。適切な使用法も、不適切な使用法も、または、ことわざらしく聞こえるパロディ的表現も、現代のように、テレビ番組や広告、あるいは、インターネットなどのマスメディアに登場すれば、即座にその存在を確立し、新たなことわざが誕生することになる。

以前、広告批評家の天野祐吉さんの講演会で聞いた話であるが、「人類みな兄弟」という標語をパロディとして、「兄弟みな人類」と表しているものがあるそうだ。順番を変えるだけで、充分その可笑しさが出てくるものもある。また、私が英語を学習し始めたとき、**Live and let die.**「死ぬのは奴らだ」という曲を聞いたとき、**Live and let live.**「持ちつ持たれつ」が背景にあるとは知らず、何かその言葉の響きに物騒な雰囲気味わった経験がある。後で、**Live and let live.**の掛け言葉だと聞いたときは、やはり同じ可笑しさがあつた。

4. 1 IT 関連のことわざ

パロディとも言葉遊びと読んでもいいかもしれないが、ユニークなことわざとして、IT 関連のことわざを挙げているサイト (**Silicon Proverbs**) がある。ここでは、**A cat has nine lives.**「猫には九生 [命が九つ] ある《容易に死なない》」をもじって、**A chat has nine lives.**とし、〈ネット上のチャットはなかなか消えない〉ということを表しているものがある。**A journey of a thousand sites begins with a single click.**では、〈千里の道 (サイト) もワンクリックで始まる〉し、**Great groups from**

little icons grow. <大木（集団）ももともとは小さなどんぐり（アイコン）から育つ> し、**A user and his leisure time are soon parted** <愚か者（ネット中毒者）とお金（余暇）はじきに決別する> のである。IT 社会の皮肉、IT 環境の職場のいらだち、IT 時代のエチケットなど、多くの IT 関連の「叡智」が読み込まれている。**In Gates we trust.** <Bill Gates は神である> かどうか考えながら、そのいくつかを少しずつ紹介してみよう。

1. **Home is where you hang your @**
2. **The e-mail of the species is more deadly than the mail**
3. **A journey of a thousand sites begins with a single click**
4. **You can't teach a new mouse old clicks**
5. **Great groups from little icons grow**
6. **Speak softly and carry a cellular phone**
7. **C:¥ is the root of all directories**
8. **Don't put all your hypes in one home page**
9. **Pentium wise; pen and paper foolish**
10. **The modem is the message**
11. **Too many clicks spoil the browse**
12. **The geek shall inherit the earth**
13. **A chat has nine lives**
14. **Don't byte off more than you can view**
15. **Fax is stranger than fiction**
16. **What boots up must come down**
17. **Windows will never cease**
18. **In Gates we trust**
19. **Virtual reality is its own reward**
20. **Modulation in all things**
21. **A user and his leisure time are soon parted**
22. **There's no place like home.com!**
23. **Know what to expect before you connect**

24. **Oh, what a tangled Web site we weave when first we practice**

25. **Speed thrills**

26. **Give a man a fish and you feed him for a day; teach him to use the Net and he won't bother you for weeks**

4. 2 **Murphy の法則**

「トイレに入った瞬間、電話がかかってきたことはないだろうか」「バスを待っていて、タバコに火をつけた瞬間、そのバスが来たことはないだろうか」「洗車をした日に雨が降り出したり、カサを持って家を出たら雨がやんでしまったりしたことはないだろうか」マーフィーの法則をまとめた Arthur Bloch はその序文でこのように切り出している。日本ではおよそ10年前の1993年に日本語版が出版されたこの『マーフィーの法則』（英語版は、Arthur Bloch が *Murphy's Law Complete* としてまとめた）は日常生活の皮肉的な状況を、**If anything can go wrong, it will.** というマーフィーの法則第一原則のもとに、パロディ的なことわざ版としてとらえることができる。

もちろん、**All is fair in love and war.** や **Time is money.** など、普通のことわざも含まれているのだが、**A fool and your money are soon partners.** **A fool and his money are soon eletcted.** は政治家の項目に含まれていて、**A fool and his money are soon parted.** 「ばかに金を持たせるとすぐつかってしまう」のパロディとなっている。人間性に関する項目では、**Forgive and remember.** **Forgive and forget.** にはなかなかないし、**To err is human, to forgive divine.** からは、**To err is human—to blame it on someone else is more human.** **To err is human, but it feels divine.** **To err is human, but to really foul things up requires a computer.** などが生まれている。スポーツマンシップの項目では、**Fools rush in where angels fear to tread.** から、**Fools rush in—and get better seats.** 家事の項目では、**Cleanliness is next to**

godliness. 「きれい好きは敬神に近い」から、**Cleanliness is next to impossible.** このパロディでは、**next to** を前者は「～のとなりの」の意味で用いているのに対して、「ほとんど～」の意味で用いている。

「兄弟は皆人類」のように、順番を入れ替えるのもパロディの一つである。世界観の項目では、**Believing is seeing.** とある。**Seeing is believing.** 「百聞は一見にしかず」ではあるが、事実、人は思い込んでいるものを見ているのである。**Nothing is as permanent as that which is called temporary.** と **Nothing is as temporary as that which is called permanent.** ではどうであろうか。「一時的と言われているものほど永遠に続く」のか、「永遠と言われているものほどつかの間のもの」なのか、単調な仕事や雑用は前者だが、恋愛の誓いは後者である。ことわざの一部を変えることで、新しい「ことわざ」が生み出されることはよくあることだが、マーフィーの法則の面白さは、ことわざの後に、「ヤジ」を入れることでもあるのだ。

4. 3 ヘッドラインやキャッチフレーズとしてのパロディー

ことわざをヘッドラインやキャッチフレーズでよく用いるというのは常等作戦である。キャッチフレーズでは、**I think therefore, IBM.** など、直接企業名が入っているものあれば、企業戦略の方針としてつかっているものもある。ここでは、ヘッドラインに表れることわざとその変種を取り上げてみる。

Beauty is in the eye of the beholder. 「たで食う虫も好きずき」ということわざがはよく、**Beauty is in the eye of the beer holder.** ともじられることがある。BBC のニュースの記事では、“**Beauty is in the eye of the beer holder.**” のヘッドラインの項目に続く本文は “**Beauty may be in the eye of the beer holder rather than the beholder, according to a new study by scientists.**” (<http://news.bbc.co.uk/1/hi/scotland/>

2201198.stm) とある。この記事の内容は、科学者たちが、“beer goggle” 「ビールを飲んだことで誰もが美人にみえること」の検証をしているというのである。その他の変種にはどのようなものがあるかインターネットで検索してみた。

Beauty in the eye of the android

<http://news.bbc.co.uk/1/hi/scotland/2749537.stm>

BEAUTY IS IN THE EYE OF THE JOB HOLDER

<http://www.voice-online.net/content.php?show=4872&type=7>

Beauty in the eye of the beholden.

http://www.jolique.com/beauty/beauty_eye_beholden aflalo.htm

Beauty Is In The Eye of Me

<http://www.icybrian.com/freezer/glarryybeauty.php>

Beauty Is in the Eye of the Superintendent

<http://capecodconfidential.com/cc3-3.shtml>

Power, like beauty, is in the eye of ...

<http://www.smh.com.au/articles/2004/05/03/1083436538031.html?from=storyrhs&oneclick=true>

では、**A Woman's Place is in The Home** ではどうだろう。女性はどこに在るべき存在なのか。このことわざは本来は次のように使用されるべきものであった。ある人生相談の質問である。Q: I am a woman and I really believe that **a woman's place is in the home** taking care of house work and the children. Since women entered the workplace, children have been without parents and love which has led to the society that we live in today. 「女性は家において、家事や育児に従事すべきものであるが、社会に出て行くようになってから、現代のような子どもが関わる問題が生じたのだ」と切り出している。ことわざを用いて、一つの論を展開している (http://www.feminist.com/askamy/most/most_newfem.html)。

また、“home”や“house”でなければ、**A Woman's Place Is in the**

Kitchen であったりする。しかし、一般の家庭のキッチンというだけではない。ある書物のタイトルがまさしく、*A Woman's Place Is in the Kitchen* であるのだが、その副題に *The Evolution of Women Chefs* とついているのである。「女性シェフの進化」の副題が示すところは、男性優位な（高級）レストランの「キッチン」に、女性シェフが登場し、活躍し始めている現状を語るものであるらしい。

その他、少し並べてみよう。

A Woman's Place is in the Cockpit. はもちろんパイロットへの招待。

A Woman's Place Is in Uniform は military service 「軍務」への招待。

A WOMAN'S PLACE IS.....IN THE BOARDROOM

<http://www.boardoptions.com/womanboard.htm>

A Woman's Place is in the Courtroom

<http://www.kirkland.com/ourFirm/newsListDetail.aspx?H4AssetID=1124746620&type=Articles>

A Woman's Place is in Cyberspace

<http://www.fastcompany.com/magazine/01/womwire.html>

A Woman's Place Is In The Frontline

<http://www.africanews.com/article252.html>

A Woman's Place Is in the Groove は Audio CD のタイトルで、groove は音楽用語で、もともとは「レコードの溝」

A Woman's Place Is In The Blues

<http://www.uppityblueswomen.com/news/9903.html>

中には世界情勢が不安定な状況で、女性が自爆テロリストとして利用されているのではないかと訴えかける記事にもこのことわざが見られた。**Women May Not Drive a Car, but Can Blow Themselves Up: AJCONGRESS CONDEMNS SAUDI RELIGIOUS DECREE THAT WOMEN CAN SERVE AS SUICIDE BOMBERS; CALLS ON RELIGIOUS LEADERS TO SPEAK OUT IN OPPOSITION** の見出しの中で、**We do not**

believe that **a woman's place is necessarily in the home**. We also do not believe that **a woman's place is in the Tel Aviv bus station, or similar locations**, armed to kill, in the name of religious faith. と女性は必ずしも家庭にいる存在ではないのだが、自爆テロを行うべき存在でもないと言っている。まさに、時事的な内容であった。

話をもとに戻し、先に挙げた **A woman's place is in the home** の類似表現で、**A woman's place is in the house** を考えてみる。House と頭文字を大文字で表現すれば、「議会」、正確には House of Representatives 「下院」を表す。また、**A woman's place is in the House of Commons** はイギリス版の「下院」表現 (House of Commons) である。つまり、女性が政界に出て行くことを提唱するものとなる。*A Woman's Place Is in the House* という本のタイトルもあり、副題に *Campaigning for Congress in the Feminist Era* とある。1968年から1992年の間に、アメリカ議会の議席を求めて立候補した女性の選挙運動に関するもので、女性の候補者が男性たちに負けず劣らず、見事に立ち回っているというものである。他にも、**A woman's place is in the House and Senate** や **A woman's place is in the House and Senate and Oval Office** のように、Senate 「上院」や Oval Office 「ホワイトハウスの大統領執務室」などの変種も多くみられる。**A Woman's Place is in the White House** は Jacqueline Kennedy や Hillary Clinton など First Lady の記事である (<http://www.trincoll.edu/zines/tj/tj01.30.97/articles/cover.html>)。

最後に、この変種でもっとも目を引いたのが、

A Woman's Place is in the…Curriculum and in the Constitution

<http://www.nwhp.org/tp/curriculum/2004/conference.html>

であった。award-winning teacher training conference と説明が付されているが、2004年アメリカで Alice Paul Institute, Rutgers University, National Constitution Center, National Women's History Project などが開催した大会の名前である。その名の通り、女性の社会的地位を教育面から推進しようとする表現である。また、**A woman's place is in industrial research** と、ヨーロッパの研究機関の数多くの女性研究者たちの現状を述べている記事もある (<http://www.cordis.lu/euroabstracts/en/february04/human01.htm>)。 **A WOMAN'S PLACE IS IN THE LAB** も類似の表現だが、本学もこのような役割が果たせるよう、これからもますます社会に貢献をしていきたいものである。

5. ことわざの言語的特徴

日常の言語使用の中で、ことわざらしい表現というのがある。**Never trouble trouble till trouble troubles you.** 「取越し苦労はするな」、**Haste makes waste.** 「せいては事をし損ずる」、**Words cut more than swords.** 「ことばは剣よりよく人を切る」、**United we stand, divided we fall.** 「団結すれば立ち、分裂すれば倒る」、**Soon ripe, soon rotten.** 「早く熟すれば早く腐る、大器晩成」などはその視覚的、聴覚的なことわざらしさを有している。しかし、特に、ことわざと認識されていなくても、いかにもことわざらしく聞こえたりすることもある。ではその際のことわざらしい定型表現とはどのようなものであろうか。また、ことわざらしさには古めかしい表現も含まれているのである。何世紀にもわたって使用されていることわざや、特に、古典文学や聖書からの引用句などには現代の英語とは異なった古語法がみられる。そこで、ここでは、ことわざに表れる言語形式の特徴を考えてみることにする。

なお、この項目では、主に『CD-ROM 版 リーダーズ+プラス』のこと

わざをデータベースとし、ことわざの後の日本語訳と意味はこれに拠るものである。また、語彙や文法的な解説は、『リーダーズ英和辞典』『リーダーズ・プラス』に加え、『Oxford English Dictionary』その他、英語史関係の文献（参考文献第Ⅱ部）を参考にした。

5. 1 定型表現

ことわざの言語形式とその論理展開を研究するものは多い。その中から、一般的な定型表現を挙げてみよう。Dundes (1981) はこの定型表現を *proverb compositional or architectural formulas* と呼び、‘Better X than Y.’ ‘X is X.’ ‘X is Y.’ ‘X never . . .’ ‘X or Y.’ ‘He who X is B.’ ‘Where there’s X, there is Y.’ などをとりあげているのでそれらを参考にした。

◆ 「同時には～できない」

「同時にいい思いばかりできない」とか、「何かを犠牲にしなければ、あることは達成できない」のようなこの表現では、‘You cannot A and B.’ の形式になり、「A して、さらに、その上、B することはできない」という意味になる。参考までに、‘You cannot A or B.’ は「A したり B したりできない」である。

You [One] cannot make an omelette [omelettes] without breaking eggs.

卵もわずらずにオムレツは作れない《何事をするにも犠牲を払わなくてはならない》。

You cannot burn the candle at both ends.

ろうそくの両端を燃やすことはできない、逆のことを同時にはできない。

You cannot run with the hare and hunt with the hounds.

ウサギといっしょに逃げて犬といっしょに狩りをすることはできない。

You cannot sell the cow and drink the milk.

牛を売って牛乳は飲めない。

You cannot serve two masters.

二君に仕える [二つの相反する主義を信奉する] ことはできない。

You can't have [eat] your cake and eat [have] it (too).

菓子は食えばなくなる 《両方いいことはできない》。

One cannot be in two places at once.

一時に二か所にはいられない 《何かをしないための言いわけ》。

同じ 'You cannot ...' の形式でも、「本質的に、それは無理なことだ」を表すものがある。「AにBは要求できない」の形式になるものが多い。

You cannot catch old birds with chaff.

もみがらで年をとった鳥は捕えられない 《老練の者はだませない》。

You cannot get a quart into a pint pot.

1パイント入りの壺に1クォート入れることはできない。

You cannot get blood out of a stone.

石をしぼっても血は出ない 《冷酷な人間から同情は得られない》。

You cannot make a crab walk straight.

カニを縦に歩かせることはできない。

You cannot make a silk purse out of a sow's ear.

豚の耳で絹の財布は作れない《粗悪な材料でりっぱなものは作れない、人間の本性は変えられない》。

You cannot put old heads on young shoulders.

若い者の肩に年寄りの頭を載せることはできない《若い者に年配者の分別は求められない》。

One cannot put back the clock. 時計は逆には戻せない。

◆比較表現

'It is better to be X than to be Y.' は主に、'Better X than Y.' と表現される。

Better bend than break.

こわれるよりはたわめ《権力に屈する場合などのことば》。

Better late than never.

おそくてもしないよりはまし。

Better to ask the way than go astray.

迷うより道を聞け、聞くは一時の恥。

Blood is thicker than water.

血は水より濃い、他人よりは身内。

Contentment is better than riches.

足るを知るは富にまさる。

Easier said than done.

口で言うほどやさしくはない《言うはやすく行なうはかたし》。

Expectation is better than realization.

期待は実現にまさる。

Fact [Truth] is stranger than fiction.

事実は小説よりも奇なり。

Gluttony kills more than the sword.

大食は剣より多く人を殺す。

Half a loaf is better than no bread [none].

半分でもないよりはまし。

Health is better than wealth.

健康は富にまさる。

It is a sad house where the hen crows louder than the cock.

めんどりがおんどりより大声で鳴くうちは不幸なうちだ《亭主より女房が強いのは不幸だ》。

It is better to travel hopefully than to arrive.

着いてしまうよりも希望をもって旅するほうがよい《目的の達成に努めている間のほうが喜びが大きい》。

It needs more skill than I can tell to play the second fiddle well.

第二ヴァイオリンをちゃんと弾くのは大変な手腕を要するものだ《脇役はむずかしいもの》。

Kind hearts are more than coronets.

優しき心は宝冠にまさる。

One foot is better than two crutches.

一本足でも二本の松葉杖にまさる《あるものに甘んじよ》。

Practice [Example] is better than precept.

実行 [実例] は教訓にまさる。

Prefer the devil one knows to the one [devil] one doesn't know. =

Better the devil one knows than the one [devil] one doesn't.

正体不明の災いよりも正体のわかっている災いのほうがよい。

Prevention is better than cure.

予防は治療にまさる。

The cure [remedy] is worse than the disease.

病気よりも治療するほうが害になる，直そうとするとかえって悪くなる。

The eye is bigger than the belly.

目は胃袋より大きい 《満腹してもまだ食べたがるもの》。

The pen is mightier than the sword.

文は武よりも強し。

The sauce is better than the fish.

添え物のほうが主要部より上でき。

There are more ways of killing a cat than by choking it with cream.

クリームで窒息させるだけが猫の殺し方とは限らない 《方法はさまざま；簡単に **There's more ways than one to kill [skin] a cat.** ということが多い》。

Two heads are better than one.

三人寄れば文殊（もんじゆ）の知恵。

Who is worse shod than the shoemaker's wife?

靴屋の女房ぐらいひどい靴を履いている者があるのか、「紺（こう）屋の白ばかま」。

Words cut more than swords.

ことばは剣よりよく人を切る。

(It is) better wear out than rust out.

腐ってしまうより磨滅するほうがまし、「居ても一生立っても一生」。

(It's) easier said than done.

言うのはやさしいが行なうのは困難だ。

A good name is sooner lost than won.

よい評判をとるのはむずかしいが失うのは早い。

A wise man is never less alone than when alone.

賢者はひとりでも孤独にはならない。

Actions speak louder than words.

行ないはことばよりも雄弁である、人はことばより行ないで判断される。

Better (to be) safe than sorry.

用心に越したことはない。

Better (to) be alone than in bad [ill] company.

悪い仲間と交わるよりひとりているがよい。

Better an egg today than a hen tomorrow.

今日の卵は明日の鶏にまさる。

Better be a fool than a knave.

悪党よりばかがまし。

Better be an old man's darling than a young man's slave.

若い男の奴隷になるより老人にかわいがられよ 《女性の結婚について
いう》。

Better be the head of a dog [an ass] than the tail of a lion [a horse].

鶏口となるとも牛後となるなかれ。

[There is no . . . like]

(There is) no time like the present.

今よりいい時はない 《するなら今だ》。

(There's) no fool like an old fool.

《特に恋狂いをする》 年寄りのばかは始末に負えない。

There's nothing like home.

わが家にまさる所はない 《John Howard Payne の Home, Sweet Home
中の一節》。

◆ [It is . . . that]

It is a foolish [an ill] bird that soils [fouls] its own nest.

自分の巣をよごすのはばかな鳥だ 《身近のこと [仲間] を大切にせよ》。

It is a foolish sheep that makes the wolf his confessor.

信頼できぬ者に秘密を語るな。

It is a long lane that has no turning.

曲がりのない路はない、いつまでも同じ状態が続くことはない、「待てば甘露のひよりあり」。

It is a long road that has no turning.

曲がり角のない道は長い道だ [道はない], いつまでも不幸 [災難] が続くことはない。

It is a sad house where the hen crows louder than the cock.

めんどりがおんどりより大声で鳴くうちは不幸なうちだ《亭主より女房が強いのは不幸だ》。

It is love that makes the world go round.

この世を動かして行くものは愛である。

It is the unexpected that always happens.

いつも思いがけないことが起こるもの。

It's an ill wind that blows nobody (any) good.

だれの得にもならない風は吹かない, 「甲の損は乙の得」。

It's dogged (as [that]) does it.

事の成否はがんばりひとつ。

It's the last straw that breaks the camel's back.

《限度を超せば》たとえわら一本載せてもラクダの背骨が折れる。

◆二重否定

[never]

It never rains but it pours.

降れば必ず土砂降り, 不幸 [物事] は重なるもの, 二度あることは三度。

Never make threats you cannot carry out.

実行できない脅迫はするものじゃない。

One is [You are] never too old to learn.

幾つになっても学ぶことはあるものだ。

A wise man is never less alone than when alone.

賢者はひとりでいても孤独にはならない。

There's none so blind as those that will not see.

見ようとしなない人がいちばん見えない。

[cannot]

He that cannot obey cannot command.

服従できない者は支配できない。

If you cannot bite, never show your teeth.

かみつけないなら歯を見せるな 《無理な威嚇はやめておけ》。

What is done cannot be undone.

済んだことは取り返せない。

He cannot speak well that cannot hold his tongue.

黙ってられない者は話しはへたなもの。

[without]

(There is) no rose without a thorn.

とげのないバラはない、世の中に完全な幸福はない。

(There is) no smoke without fire.

火のない所に煙は立たない。

A man without a smiling face must not open a shop.

笑顔なき者は店出すべからず。

A prophet is not without honor, save in his own country and in his own house.

予言者 [預言者] 故郷に容れられず。 [save = except]

No gains without pains.

労せずば効なし, 「蒔かぬ種は生えぬ」。

No rose without a thorn. = Roses have thorns.

バラにとげあり 《よいことづくめのものはない》。

Praise without profit puts little in the pot.

実益のないほめことばはたいした足しにはならぬ。

There is no garden without weeds.

雑草のない庭はない。

There is no pleasure without pain.

苦しみなくては愉しみもない。

There is no wheat without chaff.

殻のない小麦はない 《真価はくだらない外観の下に隠れている》。

What is a workman without his tools?

道具なしの職人はなんの役に立とうか 《何事にも手段が要る》。

You [One] cannot make an omelette [omelettes] without breaking eggs.

卵もわずらずにオムレツは作れない 《何事をするにも犠牲を払わなくてはならない ; cf. 「まかぬ種は生えぬ」》。

The race is not to the swift, nor the battle to the strong.

競走は足の速い者のものでもなく, 戦争は強者のものでもない, 「勝負は時の運」 《Eccl. 9 : 11》。

◆対句表現

[one – another]

Submitting to one wrong brings on another.

一度不法に甘んずればまた不法を招くことになる。

The worse luck now, the better another time.

今は運がなくてもいずれは運が向いてくる。

To know is one thing, and it's quite another (thing) to teach.

知っているのと教えるのとは別もの 《学者必ずしも良師ではない》。

Tomorrow is another day.

明日という日もある。

When one door shuts another opens.

ひとつの扉が閉まれば他の扉が開くものだ 《失敗しても次の機会を待て》。

Misfortunes never come single [singly]. = One misfortune rides upon another's back.

不幸は続くものだ。

One beats the bush, and another catches the birds.

鳥を追い出す者があり、これを捕る者がある 《労する者と上がりを吸い上げる者がある》。

One good turn deserves another.

親切を施せば親切を返してもらう資格がある、情けは人のためならず。

One man sows and another man reaps.

甲が種をまき乙が刈り取る [横取りする]。

One man's meat is another man's poison.

甲の薬は乙の毒.

[some – other]

Other times, other manners.

時代が変われば風俗も変わる.

The apples on the other side of the wall are the sweetest.

塀の向こうのリンゴがいちばんうまい《人のものはよく見える》.

The grass is greener (on the other side of the hill [fence]).

よその芝生は(うちの芝生より)青く見える.

There are plenty of other pebbles on the beach [shore].

浜辺にはもっとたくさんの小石がある《機会はいくらでもある》.

Wise men learn by other men's mistakes; fools by their own.

賢者は人のあやまちから学び、愚者はみずからのあやまちに学ぶ.

A rose by any other name would smell as sweet.

名は何と呼ぼうとバラは香りのいいものだ.

Half the world knows not how the other half lives.

世間の半分はあとの半分の暮らしを知らないものだ.

It is easy to bear the misfortunes of others.

人の不幸を耐え忍ぶのはやさしいものだ.

Know your own faults before blaming others for theirs.

人の欠点を責める前に自分の欠点を知れ.

Some are wise, some are otherwise.

賢い人もいるし、そうでない人もいる。

[no X, no Y]

Nothing seek, nothing find.

求めずんば得ず。

Nothing stake, nothing draw.

なにも賭けないではなにも取れない。

Nothing succeeds like success.

一事成れば万事成る。

Nothing venture, nothing have [gain, win]. = Nothing ventured, nothing gained.

虎穴に入らずんば虎子を得ず。

5. 2 古語法

語彙、代名詞、否定など、現代英語の使用環境においては古語的 (archaic) とみなされる語法をとりあげてみる。ことわざ・名言の中には特に、Shakespeare や欽定英訳聖書 (Authorized Version) からのものが多いため、近代英語の前期以降の古語法が数多く見受けられるのである。

◆語彙

Nothing comes *amiss* to a hungry man.

すき腹にまずいものなし。

Ill weeds grow *apace* [are sure to thrive].

雑草は茂りやすい、「憎まれっ子世にはばかる」。

解説⇒ amiss も apace も a- + miss, a- + pace でできあがっている語であるが、後者の apace は現代英語では文語である。

East is East, and West is West, and never the *twain* shall meet.

東洋と西洋は互いに相容れないものだ、場所が違えば文化も違う
《Kipling のことば》。

解説⇒元来、twain は古代英語期には男性数詞であり、two が中性・女性数詞であったが、現代では、two に対する副次的な語となった。欽定英訳聖書や結婚式の表現として生き残ったが、古語的な響きがあり、詩の言語のように韻律の関係で使用されるようである。また、現代では twain は単独で用いるのが普通で、twain stars のように名詞を従えることはまれである。

Many a little [pickle] makes a *mickle*. = Every little makes a *mickle*.

ちりも積もれば山となる。

解説⇒ A large sum or amount. を表す意味では、このことわざの使用例が主である。

When in doubt, no (*sic*) *nowt*.

確かでない時にはなににもするな。[no (*sic*) は do の誤植と思われる]

解説⇒イギリスの口語・方言形で naught, nought (=nothing) の意味であるが、これらも古語・文語である。do naught, do nought, つまり, do nothing となる。

It is useless spoiling the ship for a *ha'p'orth* of tar.

半ペニーのタールを惜しんで一隻失う、一文惜しみの百知らず。

解説⇒ ha'p'orth とは halfpennyworth のことで、OED には Originally referring to the use of tar to protect sore places or wounds on sheep from the destructive attacks of flies. (Sheep is dialectally pronounced ship over

a great part of England.) と解説がついている。

Blessed is the eye (that is) between [*betwixt*] Severn and Wye.

セヴァーン川とワイ川の間にある目は幸いである《この地方の風景が美しいから》。

解説⇒意味や用法は現代語の **between** に相当し、以前は **betwix**, **betwixen**, **bitwih**, **bitwihen**, **bitweies** (いずれも廃語) とともに同意語であった。現在、**betwixt** は古語・詩語・方言(口語)で使用されている。中英語期までは、**betwix** という語形もあったが、1500年以降、**betwixt** が主流となった。18世紀、北部のスコットランドでは **betwix** も残っていたようである。

Speech is *silvern* [silver], silence is golden [gold].

雄弁は銀、沈黙は金《おしゃべりより無口がよい意であるが、**Silence is golden, but speech is silver.** などともいう》。

解説⇒接尾辞-en は、物質名詞につけてその性質を表す語を作るのであるが、**golden** は耳にしても、**silvern** は聞きなれない語である。現代では、文語で修辭的な言い回しにしか使われないようである。それでも、**wooden** や **woolen** なら馴染みがあるだろう。興味深いことに、方言では **stonen**, **glassen**, **steelen**, **papern** などが現存するそうだ。

First thrive and then *wive*.

栄えてから妻をめとれ。

解説⇒「妻をめとる、～に嫁ぐ、～を嫁がせる」の意味であるが、現代英語では、**marry** が普通である。

◆代名詞

[*thou / ye*]

Claw me, and I'll claw *thee*.

人は万事相手の出方しだい、「魚心あれば水心」.

Gather ye rosebuds while ye may.

バラのつぼみは摘めるうちに摘め 《青春は若いうちに楽しめ》.

解説⇒中英語期から近代英語期にかけて、二人称単数 *thou – thy – thee – thine* / 複数 *ye – your – you – yours* と活用した。一人称単数 *I – my – me – mine* / 複数 *we – our – us – ours* と類似の活用をしていたのである。また、*ye* は相手に敬意を表す際にも用いられ始め、やがて一般化することになる。活用も目的格 *you* が主格 *ye* を兼ねるようになり、現代英語の二人称 *you* ができあがった。二人称に複数形がはっきりと表されるのは *yourself / yourselves* しかないのはこのためである。

[he]

He that serves everybody is paid by nobody.

だれにも仕える者はだれからも報いられることがない。

He cannot speak well that cannot hold his tongue.

黙ってられない者は話しはへたなもの。

解説⇒ここでは *he* が関係代名詞の先行詞として機能しているが、現代英語では、**Heaven [God] helps those who help themselves.** 「天はみずから助くる者を助く」や **Those whom the gods love die young.** 「神々に愛される人びとは若死にする 《神々が天上の幸福な生を与えることを欲するので》」に見られる複数形 *those* が一般的である。また、**They brag most who can do least.** 「いちばんできない者がいちばん自慢する」や **They that dance must pay the piper [fiddler].** 「踊る者は笛吹き [ヴァイオリン弾き] に金を払わねばならぬ」**These are they whom the Lord hath sent to walk to and fro through the earth.** のように、*they* が先行詞ともなるが、これは古語法である。

He that hath not silver in his purse should have silk in his tongue.

金の無い者はことばはなめらかにせよ。

He cannot speak well that cannot hold his tongue.

黙ってられない者は話しはへたなもの。

He is rich that has few wants.

足るを知る者は富める者なり。

He laughs best who laughs last. = He who laughs last laughs longest.

最後に笑う者が最もよく笑う、うっかり人を笑うな、あまり気早に喜んではならない。

He must have a long spoon that sups with the devil.

悪者と組む者は油断もすきもあってはならない。

He that cannot obey cannot command.

服従できない者は支配できない。

He that commits a fault thinks everyone speaks of it.

あやまちをした者は人が皆うわさをしていると思うものだ。

He that fights and runs away may live to fight another day.

戦って逃げる者は生きてまた戦う日もあろう《無媒さを戒めることば》。

He that has a full purse never wanted a friend.

金があれば友だちに不足はない。

He that has a great nose thinks everybody is speaking of it.

大鼻の持主は人はいつもそのことをうわさしていると思っている。

He that hath not silver in his purse should have silk in his tongue.

金の無い者はことばはなめらかにせよ。

He that serves everybody is paid by nobody.

だれにも仕える者はだれからも報いられないことがない。

He that touches pitch shall be defiled.

ピッチにさわればよごれる，朱に交われば赤くなる。

He that would eat the kernel must crack the nut.

実を食せんとする者はクルミを割らねばならぬ《それだけの努力をせよ》。

He that would the daughter win, must with the mother first begin.

娘を得んとする者はまず母親より始めよ。

He travels the fastest who travels alone.

ひとり旅が最も速い《妻子や仲間がじゃまになるときのことば》。

He travels the fastest who travels alone.

一人旅がいちばん速い《妻子、友人などは仕事の足手まとい；Kiplingの詩の1行》。

He who [that] fights and runs away lives to fight another day.

戦って逃げて生きながらえて他日また戦う機会がある。

He who begins many things, finishes but few.

多くの事に手を出す者は仕上げるのが少ない。

He who denies all confesses all.

すべてを否認するはすべてを告白するに同じ。

He who excuses himself, accuses himself.

言いわけをするのは自分を責めることになる《かえって疑われる》。

He who gives fair words feeds you with an empty spoon.

うまいことばは空（から）のスプーン。

He who goes against the fashion is himself its slave.

流行に逆らう者もまた流行の奴隷なり。

He who handles a nettle tenderly is soonest stung.

そっとイラクサを扱う者はたちまち刺される《危険には大胆に立ち向かえ》。

He who hesitates is lost.

ためらう者は機会をのがす。

He who makes no mistakes makes nothing.

あやまつことなき者は何もしない者だ。

He who pays the piper calls the tune.

笛吹きに金を払う者には曲を注文する権利がある、費用を受け持つ者には支配権がある、「金を出せば口も出せる」。

He who rides a tiger is afraid to dismount.

虎に騎する者降りるを恐る。

He who runs after two hares will catch neither.

二兎を追う者は一兎をも得ず。

He who would climb the ladder must begin at the bottom.

千里の道も一歩から。

[複合関係代名詞]

Handsome is *that* handsome does.

行ないのりっぱなのがりっぱな人, 「みめより心」.

解説⇒現代英語では *what* である。17世紀まで用いられていたが、現在では古語や詩語である。

Who chatters to you will chatter of you.

人のうわさをきみに語る者はきみのうわさもするだろう。

Who repairs not his gutters repairs his whole house.

雨樋を直さない者は家全部を直すことになる。

Whom God will destroy he first makes mad.

神は滅ぼそうとする時は気を狂わせることから始める。

Whom the gods love die young.

神々の愛する者は若死にする。

解説⇒現代では, *those who / whom* と表すところである。

◆冠詞

[a = the same]

Birds of *a* feather flock together.

類をもって集まる, 類は友を呼ぶ。

Two of *a* trade never [seldom] agree.

商売がたきは気が合わぬもの。

解説⇒現代英語では, *two at a time* や *of a sort, a size, a price, an age* のような定型の句でしか用いられない。

[many a + 単数名詞]

Many a little [pickle] makes a mickle. = Every little makes a mickle.

ちりも積もれば山となる。

There's many a good tune played on an old fiddle.

古いヴァイオリンでもいくらかもいい曲が弾けるものだ《年はとってもいろいろ能力はある》。

There's many a slip 'twixt [between] (the) cup and (the) lip.

コップを口に持っていく間にもいくらかもしくじりはある《100里を行く者は90里を半ばとす》。

There's many a true word spoken in jest.

冗談が本当になることがある。

解説⇒不定冠詞 a は many a, such a, what a のように特定の形容詞に続くことがある。ただし, many a は現代英語では文語・古語である。

◆形容詞・副詞・その他

[ill]

An ill payer [paymaster] never wants (an) excuse.

払うつもりがなければ口実はあるものだ。

Ill weeds grow apace [are sure to thrive].

雑草は茂りやすい, 「憎まれっ子世にはばかる」。

It is a foolish [an ill] bird that soils [fouls] its own nest.

自分の巣をよごすのはばかな鳥だ《身近のこと [仲間] を大切にせよ》。

It's an ill wind that blows nobody (any) good.

だれの得にもならない風は吹かない, 「甲の損は乙の得」。

Bad news travels fast [quickly]. = *Ill* news comes [flies] apace.

悪事千里を走る。

Better (to) be alone than in bad [*ill*] company.

悪い仲間と交わるよりひとりであるがよい。

When children stand quiet they have done some *ill*.

子供が黙っている時はなにか悪いことをしたのだ。

It is *ill* striving against the stream.

流れに抗するはかたし。

***Ill* gotten [got], *ill* spent.**

悪銭身につかず。

解説⇒ことわざに表れる形容詞 *ill* は、「病気の」ではなく、「悪い」という評価語で用いられることが多い。基本的な用法は、叙述用法で「病気である」となるのだが、限定用法の場合、もともと *evil* 「悪い」の意味であり、現代英語でもこの意味をとどめている。

[but]

Slow and [*but*] sure [steady] wins the race.

ゆっくりと着実なのが結局勝つ、「急がば回れ」。

[but = except]

What can you expect from a hog *but* a grunt?

豚にはブーブーしか期待できない。

[but = only]

Beauty is *but* [only] skindeep.

美貌はただ皮一重《有徳などの保証にはならない》。

Christmas comes *but* once a year.

クリスマスは年に一度しか来ない《だから大いに楽しみ、善行を施せなど》。

He who begins many things, finishes *but* few.

多くの事に手を出す者は仕上げるのが少ない。

The mouse that has *but* one hole is quickly taken.

穴一つだけのネズミはすぐにつかまる《一つのことだけにたよるのは危険だ》。

A wonder lasts *but* nine days.

驚異も九日しか続かない、人のうわさも七十五日。

解説⇒現代英語では、一般的に文語とされるこの意味 (Nought but, no more than, only, merely) の用法は、もともとは He nis but a child. であったのが、動詞 nis の否定が脱落して、He is but a child となったのである。「子ども以外のものではない」から「ほんの子どもだ」となったのである。

[but = that not]

It never rains *but* it pours.

降れば必ず土砂降り、不幸 [物事] は重なるもの、二度あることは三度。

解説⇒元来、but that (=except that) の省略形で、必然的な状況や結果を導く節をつくりあげる。現代英語では、without + 動名詞で表すのが普通である。

[save = except]

A prophet is not without honor, *save* in his own country and in his own house.

予言者 [預言者] 故郷に容れられず。

解説⇒今日の用法では、文語・古語・フォーマル語とラベル付けされているが、もともと、Keeping . . . safe or intact, without hurt or prejudice to . . . , without loss of . . . , making reservation of . . . , with due respect to . . . の意味を持つ形容詞 safe (今では廃語) から発達した。

◆否定 [V not.]

英語の否定文において、否定語 not の位置は、以下のような例が普通である。

Don't count your chickens before they are hatched.

卵が孵 (かえ) らぬうちからひなを数えるな。

Do not spur a willing horse.

自分で進む馬に拍車は無用。

Clothes do not make the man.

衣服は人をつくらず 《服で人柄は変わらない》。

しかし、中には、古くからの位置にあって、古めかしく聞こえてくるものもある。Forget-me-not は「忘れな草」であるが、Don't-forget-me では少し興奮めであろう。さて、歴史的には、古英語期 ic ne secge (I not say) で始まり、中英語期に代表的な I ne seye not となり、以降、I say not. → (I not say.) → I do not say. → I don't say. と発達してきたと言われているが、助動詞としての do が発達すると、急速に現代の否定構造

が確立した。ここでは、V + not の否定構造を持つことわざをあげてみよう。

Burn *not* your house to fright the mouse away.

ネズミ退治に家を焼くな《極端な手段をとるな》。

Cast *not* the first stone.

先に立って石を投げつけるな《人を責める前に自分のことも反省せよ》。

Catch [Grasp] *not* at the shadow and lose the substance.

影をつかもうとして実を失うな。

Half the world knows *not* how the other half lives.

世間の半分はあとの半分の暮らしを知らないものだ。

Harp *not* for ever on the same string.

始終同じ事ばかり話すな。

Hide *not* your light under a bushel.

ともした明かりを枡（ます）の下に置くな《謙遜しすぎるな； Matt. 5 :15》。

Judge *not*, that ye be not judged.

人を裁くな、人に裁かれぬためである《Matt. 7: 1》。

Let *not* the sun go down upon your wrath.

怒りは翌日まで持ち越すな、いつまでも怒るな《Ephes. 4 :26》。

Light *not* a candle to the sun.

太陽にろうそくは要らない《明々白々の事を説明するな》。

Love your neighbor, yet pull *not* down your fence.

隣人を愛せ、されど垣根はこわすな。

Much water runs by the mill that the miller knows *not* of.

知らぬ間にいろいろな変化があるものだ。

Take *not* a musket to kill a butterfly.

蝶一匹殺すに銃は要らぬ《大げさなことはするな》。

Wake *not* a sleeping lion.

眠っているライオンを起こすな《厄介なことになりそうなことにわざわざ手を出すことはない》。

Waste *not*, want *not*.

むだをしなければ不足も起こらぬ。

Who repairs *not* his gutters repairs his whole house.

雨樋を直さない者は家全部を直すことになる。

Cast *ne'er* a clout till May be out.

五月が過ぎるまではぼろでも脱ぐな。

◆語順

現代英語において、英語の語順に関する知識は不可欠である。古英語期においては、名詞、代名詞、動詞、形容詞などが活用形を持っていたので、比較的語順は自由であった。しかし、中英語期に英語はその活用形を急速に失い、その代わりに語順がその意味を帯びてきたのである。これを屈折言語から分析言語へ移行したと言うが、ことわざの中でこの語順を見ていきたい。

Not good is it to harp on the frayed string.

すりきれた弦を弾くな 《同じ話ばかりするな》。

解説⇒否定表現が文全体に影響を与えるとき、現代英語でも *Never in my life have I known a man like you.* や *Not a word did he say.* のように倒置文を形成する。

Happy is the country that has no history.

歴史なき国は幸いなり。

Blessed is the eye (that is) between [betwixt] Severn and Wye.

セヴァーン川とワイ川の間にある目は幸いである 《この地方の風景が美しいから》。

Uneasy lies the head that wears a crown.

冠をいただく頭は安んぜず 《偉大なる者には心安まる時はない；
Shak.,2 Hen IV 3.1.31》。

解説⇒形容詞が補語としての機能を果たしているとき、〈補語＋動詞＋主語〉の語順をとることがある。ことわざや名言の中でも、聖書からの出典でこの現象がよく見られる。「幸いなるかな…」という語感を持つのである。

When Greek meets Greek [Greeks meet Greeks], then comes the tug-of-war.

両雄相会えば雌雄は決しがたい。

解説⇒文頭に場所を表す副詞が来るとき、**There is nothing new under the sun.** 「この世の中に全く新しいものはなになに一つない」**There, but for the grace of God, go I.** 「そうならなかったのは神様のおかげ《全くついていた》」のように、〈場所を表す副詞＋動詞＋主語〉の語順をとるのだが、このことわざに見られるように、〈時を表す副詞＋動詞＋主語〉の語

順は現代では一般的ではない。

6. 資料集1 〈海外のサイトにある日本語のことわざ〉

ここ十数年、日本語を学習する外国人の数が増えてきた。Japan Studies や Asian Studies の一環としての日本文化が輸出されているのである。日本語能力試験も2002年度には、24万人を越える受験者があったそうだ。アルクのサイト、スペースアルクではく日本人がよく使うことわざ・慣用語〉として以下のようなことわざを日本語学習者に紹介している。

「早起きは三文の得」「果報は寝て待て」「五十歩百歩」「どんぐりの背比べ」「やぶから棒」「やぶをつついて蛇を出す（やぶ蛇）」「郷に入っては郷に従え」「出る杭は打たれる」「のれんに腕押し」「馬の耳に念仏」「二度あることは三度ある」「三度目の正直」「一石二鳥」「二兎を追う者は一兎をも得ず」「棚からばたもち」「ちりも積もれば山となる」「好きこそもの上手なれ」「下手な鉄砲も数撃ちや当たる」「灯台下暗し」「能ある鷹は爪を隠す」「案ずるより産むが易し」「石橋を叩いて渡る」「とんびが鷹を生む」「蛙の子は蛙」「捕らぬ狸の皮算用」「備えあれば憂いなし」「泣きっ面に蜂」「鬼に金棒」「取り付く島がない」「身から出た錆」「乗りかかった船」「大船に乗ったよう」「寝た子を起こす」「触らぬ神にたたりなし」

そこで、海外のインターネットのサイトでは、どのような日本語のことわざが紹介されているのか調べてみた。**A good husband is healthy and absent.**「亭主元気で留守がいい」という、ことわざらしくないものも見られたが、興味深いことに、その中でも、複数のサイトで同じ英語表現で

掲載されているものがあるが、まず、主要3ヶ所のサイト (WorldofQuotes.com, Quotes and Sayings, QuoteWorld.org: Quotations, Famous Quotes–Quote Database-) に共通して紹介されているものを挙げておく。

After victory, tighten your helmet chord.

Deceive the rich and powerful if you will, but don't insult them.

Fall seven times, stand up eight.

Fast Ripe, Fast Rotten.

If you believe everything you read, better not read.

Never rely on the glory of the morning or the smiles of your mother-in-law.

One kind word can warm three winter months.

The crow that mimics a cormorant is drowned.

The go-between wears out a thousand sandals.

The nail that sticks out is hammered down.

The reverse side also has a reverse side.

Vision without action is a daydream. Action without vision is a nightmare.

We are no more than candles burning in the wind.

その他、紹介されている日本語のことわざのリストは次の通りである。特に、日本語を学習している人々、日本語教育に携わる人々、日英の言語表現に関心のある人々に参考になれば幸いである。

A fog cannot be dispelled by a fan.

A good husband is healthy and absent.

A good Jack makes a good Jill.

A good sword is the one left in its scabbard.

A man in love mistakes a pimple for a dimple.

A mended lid to a cracked pan.

A merchants happiness hangs upon chance, winds, and waves.

A merry companion on the road is as good as a nag.
A pig used to dirt turns its nose up at rice.
A round egg can be made square according to how you cut it; words would be
harsh according to how you speak them.
A single arrow is easily broken, but not ten in a bundle.
Adversity is the foundation of virtue.
Affinity is a mysterious thing, but it is spicy!
Afraid of his own shadow.
All married women are not wives.
An accomplishment sticks to a person.
An excess of courtesy is discourtesy.
An eye for an eye, and a tooth for a tooth.
Bad and good are intertwined like rope.
Beat your wife on the wedding day, and your married life will be happy.
Beaten with his own rod.
Better go without medicine than call in an unskilled physician.
Darkness reigns at the foot of the lighthouse.
Deceiving a deceiver is no knavery.
Don't stay long when the husband is not at home.
Even a sheet of paper has two sides.
Even a thief takes ten years to learn his trade.
Experience is an expensive school, but a fool will learn from no other.
Fast Ripe, Fast Rotten.
First the man takes a drink, then the drink takes a drink, then the drink
takes the man.
First things first.
Forgiving the unrepentant is like drawing pictures on water.
Getting money is like digging with a needle. Spending it is like water soaking
into the sand.
Had the pheasant not screamed, it wouldn't have been shot.
If a man be great, even his dog will wear a proud look.
If a man deceive me once, shame on him; if he deceive me twice, shame on me.

If man has no tea in him, he is incapable of understanding truth and beauty.
If money be not thy servant, it will be thy master.
If my shirt knew my design, I'd burn it.
If neither animal nor vegetable you be, then mineral you are.
If one man praises you, a thousand will repeat the praise.
If the father is a frog, the son will be a frog.
If you believe everything you read, better not read.
If you understand everything, you must be misinformed.
If you want a thing done well, do it yourself.
In wealth many friends; in poverty, not even relatives.
It is a beggar's pride that he is not a thief.
It is a blessing in disguise.
Knowledge without wisdom is a load of books on the back of an ass.
Laughter cannot bring back what anger has driven away.
Laughter is the hiccup of a fool.
Life without endeavor is like entering a jewel-mine and coming out with
empty hands.
Life's not all beer and skittles.
Luck is like having a rice dumpling fly into your mouth.
Money grows on the tree of persistence.
Money has no smell.
My skirt with tears is always wet: I have forgotten to forget.
My son is my son till he gets him a wife, but my daughter's my daughter all
the days of her life.
Never trust the advice of a man in difficulty.
One dog yelping at nothing will set ten thousand straining at their collars.
One kind word can warm three winter months.
One kindness is the price of another.
One who smiles rather than rages is always the stronger.
One written word is worth a thousand pieces of gold.
Only lawyers and painters can turn white to black.
Silence surpasses speech.

Silent worms dig holes in the walls.

Sleeping people can't fall down.

The absent get further off every day.

The day you decide to do it is your lucky day.

The inarticulate speak longest.

The mouth is the door of evil.

The pebble in the brook secretly thinks itself a precious stone.

The reputation of a thousand years may be determined by the conduct of one hour.

The smaller the margin, the greater the turnover.

The smallest good deed is better than the grandest good intention.

The tongue is but three inches long, yet it can kill a man six feet high.

The tongue is more to be feared than the sword.

Tigers die and leave their skins; people die and leave their names.

Time spent laughing is time spent with the gods.

Time tries a'.

To teach is also to learn.

To tell tales out of school.

To wait for luck is the same as waiting for death.

Transactions in Hell also depend upon money.

Unless you enter the tiger's den you cannot take the cubs.

Virtue is not knowing but doing.

Walls have ears, bottles have mouths.

Walls have ears, paper sliding doors have eyes.

We are no more than candles burning in the wind.

We learn little from victory, much from defeat.

We're fools whether we dance or not, so we might as well dance.

We've arrived, and to prove it we're here.

When the time comes, even a rat becomes a tiger.

When you have completed 95% of your journey you are halfway there.

When your companions get drunk and fight, Take up your hat, and wish them good night.

**When you're thirsty it's too late to think about digging a well.
While we consider when to begin, it becomes too late.
Who travels for love finds a thousand miles not longer than one.
Wisdom and virtue are like the two wheels of a cart.
You don't have to die; heaven and hell are in this world too.**

7. 資料集 2 〈*Cultural Literacy: What Every American Needs to Know*〉

この書物は、Hirsche (1988) がその書名が表すとおり、現代アメリカ人にとって必要なリテラシーや、その現状・対策・課題を扱ったものであるが、巻末に、What Literate Americans Know: A Preliminary List として、およそ5000項目の膨大なデータがつけられている。そこでこのデータの中から、ことわざ・名言らしき項目をさがしだしてみたら、以下のような結果が得られた。英語表現のリテラシーを測る上で、参考にしてほしい。

Abandon hope, all ye who enter here	An Army Travels on Its Stomach.
Absence makes the heart grow fonder.	And thereby hangs a tale.
Actions speak louder than words.	April showers bring May flowers.
Age cannot wither her, nor custom stale / Her infinite variety	As flies to wanton boys are we to the gods. Ask, and it shall be given.
All animals are equal, but some animals are more equal than others	As you make your bed, so must you lie in it. A thing of beauty is a joy forever.
All roads lead to Rome.	A word to the wise is sufficient.
All's fair in love and war.	Back to the drawing board.
All's well that ends well.	Bad news travels fast
All that glitters is not gold.	A bad penny always turns up.
All the world's a stage.	The bad workman always blames his tools.
All work and no play makes Jack a dull boy.	His bark is worse than his bite.
An apple a day keeps the doctor away.	Beauty is but skin deep.

第Ⅱ部 英語のことわざ・名言

You've made your bed, now you must lie in it.
Beggars can't be choosers.
The best-laid plans of mice and men oft' go awry.
The best things in life are free.
Better late than never.
Better safe than sorry.
Beware of Greeks, bearing gifts.
Beware the Ides of March.
Big Brother is watching you.
The bigger they come, the harder they fall.
A bird in the hand is worth two in the bush.
Birds of a feather flock together.
Blood is thicker than water.
Brevity is the soul of wit.
The buck stops here.
Butter wouldn't melt in her mouth.
can't fit a round peg in a square hole
can't have your cake and eat it too
can't hold a candle to
can't make a silk purse from a sow's ear
can't see the forest for the trees
cast pearls before swine
cast thy bread upon the waters
C'est la vie.
chickens come home to roost
The chief business of the American people is business.
Cleanliness is next to godliness.
The cobbler should stick to his last.
warm the cockles of the heart
cold hand, warm heart
Come live with me and be my Love
The course of true love never did run smooth.
Cross that bridge when you come to it.
cut off your nose to spite your face
Damn the torpedoes. Full speed ahead.
Let the dead bury their dead.
The devil can cite Scripture.
Discretion is the better part of valor.
There's a divinity that shapes our ends.
A dog is a man's best friend.
Do not go gentle into that good night.
Don't count your chickens before they hatch.
Don't cry over spilled milk.
Don't fire until you see the whites of their eyes.
Don't give up the ship.
Don't hide your light under a bushel.
Don't judge a book by its cover.
Don't look a gift horse in the mouth.
Don't put all your eggs in one basket.
Don't put the cart before the horse.
Double, double, toil and trouble.
Do unto others as you would have them do unto you.
Drink to me only with thine eyes ...
drive a nail into one's coffin
Dust thou art and unto dust shalt thou return.
The early bird catches the worm.
Early to bed and early to rise makes a man healthy, wealthy, and wise.
easier said than done
East is East, and West is West, and never the twain shall meet.
Easy come, easy go.
Eat, drink, and be merry, for tomorrow we die.

An elephant never forgets.	From the sublime to the ridiculous is but a
Everybody talks about the weather, but	step.
nobody does anything about it.	By their fruits shall ye know them.
Every cloud has a silver lining.	The game is not worth the candle.
Every dog has his day.	Gather ye rosebuds while ye may.
Experience is the best teacher.	Genius is one percent inspiration and ninety-
an eye for an eye	nine percent perspiration.
Was this the face that launched a thousand	get down to brass tacks
ships?	to get out of bed on the wrong side
A fair exchange is no robbery.	Get thee behind me, Satan.
Familiarity breeds contempt.	Get thee to a nunnery.
feather in your cap	getting a dose of one's own medicine
feather your own nest	Give him enough rope and he'll hang
Feed a cold and starve a fever.	himself.
The female of the species is more deadly	Give me liberty or give me death.
than the male.	Give me your tired, your poor . . .
fiddle while Rome burns	Give my regards to Broadway.
Finders keepers, losers weepers.	It is better to give than to receive.
First come, first served.	giving the devil his due
First in war, first in peace, and first in the	God helps those who help themselves.
hearts of his countrymen.	God's in his heaven—All's right with the
Fish or cut bait.	world.
A fool and his money are soon parted.	Gonna laymy burden down.
A foolish consistency is the hobgoblin of	Good fences make good neighbors.
little minds.	A good man is hard to find.
Fools rush in where angels fear to tread.	goose who laid the golden eggs
forgive and forget	cutting the Gordian knot
Forgive them, for they know not what they	go to pot
do.	Go west, young man.
For want of a nail the kingdom was lost.	The grass is always greener on the other
Frailty, thy name is woman.	side.
A friend in need is a friend indeed.	greatest good for the greatest number
Friends, Romans, countrymen, lend me	Great oaks from little acorns grow.
your ears.	Had we but world enough, and time . . .
From little acorns grow mighty oaks.	Half a loaf is better than none.

第Ⅱ部 英語のことわざ・名言

the handwriting on the wall
Haste makes waste.
Hell hath no fury like a woman scorned.
Here today, gone tomorrow.
He that is not with me is against me.
He who hesitates is lost.
He who laughs last laughs best.
Hitch your wagon to a star.
hitting the nail on the head
hoist with his own petard
Home is the sailor, home from sea . . .
Honesty is the best policy.
Hope springs eternal in the human breast.
stir up a hornet's nest
A horse! A horse! My kingdom for a horse!
How sharper than a serpent's tooth it is/ To
have a thankless child
How you gonna keep 'm down on the farm
after they've seen Paree?
I am the state.
I am the very model of a modern Major-
General.
I came, I saw, I conquered.
I cannot tell a lie.
If at first you don't succeed, try, try again.
If music be the food of love, play on.
If the mountain will not come to Mohammed
. . .
If you can't stand the heat, get out of the
kithcen.
I have a dream.
I have not yet begun to fight.
Imitation is the sincerest form of flattery.
I never met a man I didn't like.
In the spring a young man's fancy/ Lightly
turns to thoughts of love.
I only regret that I have but one life to lose
for my country.
I shall return.
It ain't a fit night out for man or beast.
I think that I shall never see/ A poem lovely
as a tree.
I think, therefore I am.
It is a far, far better thing that I do, than I
have ever done.
It was the best of times, it was the worst of
times.
I wandered lonely as a cloud.
Jack-of-all-trades, master of none.
Judge not, that ye be not judged.
justify the ways of God to men
keeping up with the Joneses
keep the wolf from your door
kill two birds with one stone
kill with kindness
kingdom come
Knock on wood.
Knowledge is power.
The lady doth protest too much.
Lafayette, we are here.
land flowing with milk and honey
the last laugh
The last shall be first.
the last straw
Laugh and the world laughs with you, weep
and you weep alone.
Leave no stone unturned.
Leave well enough alone.
The leopard doesn't change his spots.
Let bygones be bygones.

Let me not to the marriage of true minds/
Admit impediments.
Let sleeping dogs lie.
The letter killeth, but the spirit giveth life.
let the cat out of the bag
Let them eat cake.
Let there be light.
Lightning never strikes in the same place
twice.
like a fish out of water
Consider the lilies of the field.
A little learning is a dangerous thing.
Little pitchers have big ears.
Little strokes fell great oaks.
Live and learn!
Live and let live.
locking the stable door after the horse is
stolen
Look before you leap.
Lord, what fools these mortals be!
Love conquers all.
Love makes the world go round.
Love of money is the root of all evil.
Love thy neighbor as thyself.
make a mountain out of a molehill.
Make haste slowly.
Make hay while the sun shines.
Man doth not live by bread alone.
A man is known by the company he keeps.
Man is the measure of all things.
Man proposes. God disposes.
A man's home is his castle.
A man's reach should exceed his grasp.
Many are called, but few are chosen.
Many hands make light work.
Marry in haste, repent at leisure.
The medium is the message.
The meek shall inherit the earth.
There's method in his madness.
Mind your p's and q's.
Mine eyes have seen the glory.
Misery loves company.
A miss is as good as a mile.
money burning a hole in your pocket
Money is the root of all evil.
moon made of green cheese
more sinned against than sinning
The more the merrier.
more things in heaven and earth, Horatio
mortal sin, venial sin
most unkindest cut of all
The mountain labored and brought forth a
mouse.
Music hath charms to soothe the savage
breast.
My God, My God, why hast thou forsaken
me?
Nature abhors a vacuum.
Necessity is the mother of invention.
Neither a borrower nor a lender be.
Nero fiddled while Rome burned.
Never give a sucker an even break.
Never in the field of human conflict was so
much owed by so many to so few.
Never put off till tomorrow . . .
It's never over 'til it's over.
It never rains but it pours.
Never say die.
It's never too late to mend.
A new broom sweeps clean.

第Ⅱ部 英語のことわざ・名言

new wine in old bottles
This was the noblest Roman of them all.
Nobody knows the trouble I've seen.
No man can serve two masters.
No man is an island.
No news is good news.
No one ever went broke underestimating
the intelligence of the American people.
nose out of joint
nose to the grindstone
There is nothing good or bad, but thinking
makes it so.
Nothing is certain but death and taxes.
Nothing succeeds like success.
Nothing ventured, nothing gained.
Nothing will come of nothing.
not with a bang but a whimper
Now I lay me down to sleep . . .
Now is the winter of our discontent.
O brave new world!
Oh beautiful for spacious skies.
Oil and water don't mix.
Old sodiers never die; they just fade away.
Once bitten, twice shy.
once in a blue moon
Once more into the breach, dear friends.
one for all and all for one
One good turn deserves another.
One if by land, two if by sea.
One man's meat is another man's poison.
One picture is worth a thousand words.
One rotten apple spoils the barrel.
One swallow does not make a summer.
one that loved not wisely but too well
The only thing we have to fear is fear itself.

Ontogeny recapitulates phylogeny.
open sesame
O Romeo, Romeo! wherefore are thou
Romeo?
An ounce of prevention is worth a pound of
cure.
Out, damned spot!
Out of sight, out of mind.
out of the frying pan into the fire
Parting is such sweet sorrow.
pay the piper
pay through the nose
pearls before swine
The pen is mightier than the sword.
A penny saved is a penny earned.
People who live in glass houses shouldn't
throw stones.
Perish the thought.
philosopher's stone
Physician, heal thyself.
pie in the sky
buy a pig in a poke
A place for everything, and everything in its
place.
Poets are born, not made.
Politics makes strange bedfellows.
pop the question
pot calling the kettle black
pour oil on troubled waters
Power tends to corrupt and absolute power
corrupts absolutely.
Practice makes perfect.
Practice what you preach.
Procrastination is the thief of time.
The proof of the pudding is in the eating

A prophet is not without honor save in his
own country and in his own house.
The public be damned!
The quality of mercy is not strain'd . . .
raining cats and dogs
read between the lines
Remember Pearl Harbor!
Remember the Alamo!
Remember the Maine!
Render therefore unto Caesar the things
which are Caesar's
The reports of my death are greatly
exaggerated.
The road to hell is paved with good
intentions.
A rolling stone gathers no moss.
Rome was not built in a day.
Rose is a rose is a rose is a rose.
salt of the earth
salt on a bird's tail
Seeing is believing.
separate but equal
set your teeth on edge
Shall I compare thee to a summer's day?
ships that pass into the night
Shoot, if you must, this old gray head . . .
shout fire in a crowded theater
The show must go on.
sign of the cross
Silence is golden. Speech is silver.
Sink or swim.
sit on the fence
skin of your teeth
slow but sure
A soft answer turneth away wrath.

Something is rotten in the state of Denmark.
a sound mind in a sound body
soup to nuts
sour grapes
Spare the rod and spoil the child.
Speak softly and carry a big stick.
Speech is silver, silence is golden.
spreading yourself too thin
Step on a crack, break your mother's back.
Still waters run deep.
A stitch in time saves nine.
Stone walls do not a prison make
strain at a gnat and swallow a camel
Strike while the iron is hot.
It takes a heap o' livin' in a house t' make it
home.
It takes a thief to catch a thief.
It takes two to tango.
take the bitter with the sweet
take the bull by the horns
tarred with the same brush
Taxation without representation is tyranny.
telling tales out of school
tempest in a teapot
That way madness lies.
There are lots of fish in the sea.
There are more things in heaven and earth
. . .
There is a tide in the affairs of men . . .
There is no joy in Mudville.
There is nothing good or bad, but thinking
makes it so.
There is nothing new under the sun.
There's a divinity that shapes our ends.
There is special providence in the fall of a

第Ⅱ部 英語のことわざ・名言

sparrow.
There's many a slip twixt the cup and the lip.
There's method in his madness.
There's more than one way to skin a cat.
There's no disputing about taste.
There's no fool like an old fool.
There's no place like home.
These are the times that try men's souls.
They shall not pass.
A thing of beauty is a joy forever.
Thirty days hath September
thirty pieces of silver
This land is your land, this land is my land.
This was the most unkindest cut of all.
This was the noblest Roman of them all.
Those who cannot remember the past
condemned to repeat it.
three sheets to the wind
through a glass darkly
throwing out the baby with the bath water
thrown to the lions
throw weight
tied to his mother's apron strings
till the cows come home
tilting at windmills
Time and tide wait for no man.
Time heals all wounds.
Time is money.
Time is of the essence.
The time is out of joint.
time's winged chariot
time to be born and a time to die
To be or not to be: that is the question.
To err is human; to forgive divine.
Tomorrow, and tomorrow, and tomorrow . . .

Too many cooks spoil the broth.
too many irons in the fire
Truth is stranger than fiction.
Truth will out.
Turn about is fair play.
turn over a new leaf
turn the other cheek
Two heads are better than one.
Two's company, three's a crowd.
two shakes of a lamb's tail
Two wrongs don't make a right.
Uneasy lies the head that wears a crown.
Variety is the spice of death.
walking under a ladder
Walls have ears.
war on poverty
warp and woof
on the warpath
washing dirty linen in public
Waste not, want not.
A watched pot never boils.
water off a duck's back
Water, water everywhere, nor any drop to
drink.
Way down upon the Swanee River
The way to a man's heart is through his
stomach.
We are such stuff as dreams are made on.
We have met the enemy, and they are ours.
Well begun is half done.
wet behind the ears
What is good for General Motors is good for
the country.
What's in a name?
What will be will be.

The wheel is come full circle.
When in Rome do as the Romans do.
When it rains it pours.
When the cat's away, the mice will play.
Where are the snows of yesteryear?
Where there's a will there's a way.
Where there's smoke there's fire.
While there is life, there is hope.
the white man's burden
Whoever loved that loved not at first sight?
Who laughs last laughs best.
Who pays the piper calls the tune.
Win this one for the Gipper.
The wish is father to the thought.
wish upon a star
wolf in sheep's clothing
A word to the wise is sufficient.
The world must be made safe for democracy.
The worm will turn.
worship the golden calf
worth his salt

Yes, Virginia, there is a Santa Clause.
You can catch more flies with honey than
with vinegar.
You can lead a horse to water, but you can't
make him drink.
You can't go home again.
You can't have your cake and eat it too.
You can't make an omelet without breaking
eggs.
You can't make a silk purse out of a sow's
ear.
You can't serve both God and Mammon.
You can't squeeze blood from a turnip.
You can't take it with you.
You can't teach an old dog new tricks.
You can't unscramble an egg.
You'll take the high road, and I'll take the
low road . . .
You may fire when ready, Gridley.
You're never too old to learn.
Youth will have its fling.

参 考 文 献

[第Ⅰ部]

- 宇津木保『ことわざの心理学』ブレーン出版 1984.
奥津文夫『英語のことわざ』サイマル出版会 1978, 88.
奥津文夫『日英ことわざの比較文化』大修館 2000.
三省堂編集所編『新明解故事ことわざ辞典』三省堂 2001.
自由国民社編『古界の故事, 名言, ことわざ総解説』自由国民社 1999.
常名鉦二郎『日英故事ことわざ辞典』北星堂書店 2000.
鈴木棠三『故事ことわざ辞典』東京堂 1956, 63.
創元社編集部編『ことわざ・名言事典』創元社 1992.
戸田 豊『現代英語ことわざ辞典』リーベル出版 2003.
山口百々男『和英・日本ことわざ成語辞典』研究社 1999.
ラム, G. F. 横山徳爾編訳『ロングマン英語引用句辞典』北星堂書店 1987.
Evans, Bergen. *Dictionary of Quotations*. New York: Avenel Books, 1968.
Princeton Language Institute, ed. *21st Century Dictionary of Quotations*. New York: Bantam Doubleday Dell Publishing Group, 1993.
Taylor, Archer, Bartlett Jere Whiting. *A Dictionary of American Proverbs and Proverbial Phrases, 1820-1880*. Cambridge, MA: Belknap Press of Harvard Univ. Press, 1967.

[第Ⅱ部]

- Hirsch, Eric Donald. 1988. *Cultural Literacy: What Every American Needs to Know*. New York: Vintage Books.
Mieder, Wolfgang. 1999. "Popular Views of the Proverb." *DeProverbio: An Electronic Journal of International Proverb Studies*. Vol 5 No 2. URL: <http://www.deproverbio.com/>
Mieder, Wolfgang., Dundes, Alan. 1981. *The Wisdom of Many—Essays on the Proverb*. Madison: University of Wisconsin Press.
荒木一雄・宇賀治正明 1984. 『英語史ⅢA』英語学大系第10-1巻 東京：大修館書店
北村考一 1996. 「右脳とことわざの言語」「ことわざとは何か」『言語』第25巻第7号1996年7月 東京：大修館書店

- 中尾俊夫・寺島廸子 1988. 『図説英語史入門』東京：大修館書店
中尾俊夫 1972. 『英語史Ⅱ』英語学大系第9巻 東京：大修館書店
小野 捷・伊藤弘之 1993. 『近代英語の発達』英語学入門講座・第6巻 東京：
英潮社
小野 茂・中尾俊夫 1980. 『英語史Ⅰ』英語学大系第8巻 東京：大修館書店
寺澤芳雄, 川崎 潔 (共編) 1993. 『英語史総合年表』東京：研究社
宇賀治正明 2000. 『英語史』現代の英語学シリーズ8 東京：開拓社
若田部博哉 1985. 『英語史ⅢB』英語学大系第10-2巻 東京：大修館書店

[辞書]

The Oxdord English Dictionary. Second Edition. Oxford University Press.

松田徳一郎 (編集代表) 1999. 『リーダーズ英和辞典』第2版 東京：研究社

松田徳一郎 (編集代表) 2000. 『リーダーズプラス』東京：研究社

松田徳一郎 (監修) 2000. 『CD-ROM 版 リーダーズ+プラス V2』

新村 出 1998. 『広辞苑』第5版 東京：岩波書店

[インターネット資料・メディア資料]

Brian Kendig

(<http://www.enchanter.net/proverbs.html>)

General Overview of Proverbs

(<http://www.siskiyous.edu/class/engl12/proverb2.htm>)

Quotes and Sayings

(<http://www.quotesandsayings.com/index.htm>)

QuoteWorld.org: Quotations, Famous Quotes-Quote Database

(<http://www quoteworld.org/>)

Silicon Proverbs

(<http://cogweb.ucla.edu/Discourse/Proverbs/English.html>)

WorldofQuotes.com

(<http://www.worldofquotes.com/>)

英語のことわざ教訓事典

(<http://www2.starcat.ne.jp/~kuniando/index.htm>)

日本人がよく使うことわざ・慣用句：スペースアルク

(<http://www.alc.co.jp/jpn/learner/kotowaza/index.html>)

『古畑任三郎7』(VHS) 1996. 三谷幸喜 (脚本) ポニーキャニオン